



No.40 2021.6.24<sup>発行</sup>  
群馬県立高崎高等学校 翠巒体育会報  
<https://suirantaiikukai.com/>

## 新校長に 小林先生<sup>81期</sup>赴任



校長 小林 智宏

### ごあいさつ

加藤聰前校長の後任として校長に就任いたしました。前校長に引き続き、本校OB(81期)です。よろしくお願いいたします。

4月1日、正門から入り、まず、校舎に対峙してまっすぐ奥へ伸びる銀杏並木、そして、右手前の指月庭を見て、懐かしさがこみ上げてきました。

4月8日の始業式。校歌で始め翠巒で締めるのも、高高ならではです。応援部のリーダーたちが、新型コロナウイルス対策のマウスシールドを着用しながらも、大きな声を体育館いっぱいに響き渡してくれました。一般的な生徒たちは、通常のマスクを着用しての齊唱でしたので、歌声はこもりがちでしたが、口の動きに合わせて動くマスクや、上半分しか見えない表情から、今の生徒たちも校歌や翠巒が大好き



東京オリンピック聖火リレー(令和3年3月31日) 特別寄稿 硬式野球部 濱野 哲敬(102期)

であることが伝わってきました。

「友よ 健康と真理かち得ん」

「頬あつく 理想追はなん」

世界中でコロナ禍が拡大し、また、あらゆる分野でグローバル化や情報化が加速度的に進展し、先行き不透明な現代において、これらの歌詞に、一つの学校の域にとどまらない普遍的な重みを感じます。長く歌い継がれて全く色褪せず、かえって、これから時代を生きる指針を与えてくれる素晴らしい校歌です。式辞では、生徒たちに、この校歌を体現する人になってほしいと述べました。

さて、昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業の長期化や、本県中心に開催予定だったインターハイの中止など、学校の教育活動は大きな影響を受けました。本校最大の行事である翠巒祭やSSHの米国研修も中止を余儀なくされました。一方、子供たちの学びを止めないため、また、新しい時代へ向かう学びを推進するため、県として全国に先駆けたICT環境整備が進められ、本校にも一人一台端末の環境が整いました。

今年度は、それらを踏まえ、ICTを積極的に活用しながら、教育活動の充実を図っているところです。体育の授業や部活動も例外ではありません。ICTを駆使することによって、様々なデータに基づき、学習やトレーニングの個別最適化を図ったり、課題を即時的に共有して検討したりすることが、効果的に行えるようになります。

しかし、そうしたことが進む中で、ICTやデータを活用する人間の主体性を養

うことの重要性を強く感じます。かのイチロー氏が、引退会見の際、米国野球の動向について、「頭を使わなくてもできる競技になりつつある」と懸念を表しました。データに従い、自分の頭を使うことが損なわれては、本末転倒です。また、肌で感じたり心を交流させたりしなければ分からぬこと、数値や論理で割り切れない善悪の判断など、データに頼れないことや任せてはいけないこともあります。

予測困難なこれからの時代、新しい価値を創造し、多様な人々と共に生きることが求められます。そして未来を切り拓く力を身に付け、高めるためには、リアルな体験を一層重視し、充実を図っていく必要があります。本校では、コロナ禍の中にあっても、感染防止対策を徹底した上でできることを最大限追求し、実施していきたいと考えています。

マスク着用による校歌や翠巒の齊唱もその一例です。国立赤城青少年交流の家の新入生合宿オリエンテーションも、施設や業者と綿密な調整を行い、応援部による校歌指導も含め、全日程を実施しました。昨年度できなかった翠巒祭も、たとえ一般公開することができなくなつたとしても、アーチや壁画をはじめ、高文化を継承・発展させる取組をしっかりと遂行することとしました。生徒たちは、まん延防止等重点措置を受け、臨機応変にWeb配信等を工夫し、新しい文化祭のかたちを創り上げました。

こうした中、運動部活動も頑張っています。本校には、運動部19、学芸部24、計43の部があります。平成30年度からの

学級減により、生徒数も教員数も減っていますが、各部の意欲と顧問の熱意により、廃止となることなく、コロナ禍の中でも工夫して活発な活動を継続しています。運動部活動の具体的な状況は、後掲のとおりです。

このように文武両道の伝統がしっかりと息づいていることは嬉しい限りです。そ

して、これは、会員の皆様の多大な御支援の賜です。本校には、PTAや教育後援会のほかに、翠巒育英会があり、そして、この翠巒体育会があります。まさに文武両道をしっかりと支える強力な支援体制をつくっていただいていることは、非常に有り難いことです。

今後も、全国的、全県的に、生徒減

が続していく見込みです。少子化は寂しいことであるかもしれません、一人一人の役割や価値が大きくなることもあります。本校での学校生活を通して、一人一人が輝けるよう、文武両道の教育活動の一層の充実を図ってまいりたいと考えています。引き続き、御理解と御支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

特別  
寄稿

## 超二流のすすめ

小池 政一  
(剣道部・77期)

昨年10月、剣道八段審査会において合格を頂くことができました。挑戦して15年。素質も実績もない私が、剣道最高段位に合格できたのは、偏に恩師別府重龍先生や高高剣道部諸先輩のご指導あってのことと、心より感謝しております。また、翠巒体育会の皆様にも、度々励ましのお言葉を頂戴して参りました。お世話になつた方々へ感謝と、後輩諸君の何か参考になればと、これまでの剣の道を振り返ってみたいと思います。

私の生まれ育った旧倉渕村権田は、故市川忠雄先生の道場があり、小学生から剣道を習うのが当たり前の土地柄でした。我々も中学校では優勝は逃したものの県上位に入賞し、少々自信も持って高校に入学しました。しかし、高高では剣道は無理と思っていました。勉強についていくのが精一杯。通学は片道1時間半。とても部活動はできないと。

そんなある日、部活動紹介で先輩から、高々は文武両道、練習は1時間以内と説明がありました。それなら何とか最終バスに間に合う。道場から聞こえる竹刀の音がどうしても忘れられず、入部を決意しました。

高高剣道部の練習は確かに短時間でした。ただ、顧問の別府先生が道場に現れると空気が一変。一瞬たりとも気が抜けない緊張感がありました。合宿等でOBの指導もあり、県大会ではベスト4に入る力をつけました。ただ、中学校同様あと一步勝ちきれず、目標の全国大会出場は叶いませんでした。

大学は東京学芸大学に進み、教師の道を目指しました。将来は部活動の指導もしたいと迷わず剣道部に入部しました。稽古

は続けていたものの、試合成績は取り立てて自慢できるものではありませんでした。

大学卒業後は群馬に戻って小中学校教員となりました。部活指導や道場での指導の傍ら、国体や全国都道府県大会の代表選手を目指し、予選会にも出場してきました。しかし、ここでも勝ちきれず、代表を逃すことばかりでした。身長161センチ、体重50数キロと小柄な私には、一流選手になるのは不可能か。諦めの気持ちが先に立ちましたが、昇段への挑戦は続け、七段までは順調に取得できました。

八段は剣道界では特別な位です。七段を取得して10年、かつ46歳以上というものが八段の受審資格です。合格率は1%以下と、日本で最も難しい試験とも言われます。八段剣士の多くは、警察官や大学の教授等、いわゆる剣道の専門家で、かつて全日本選手権大会や国体等、全国大会で活躍された方がほとんどです。昇段を目指す剣道は、スキーに例えるなら基礎スキーと言えます。一方、試合に勝つことをを目指す剣道は競技スキー。稽古を楽しむための剣道はゲレンデスキーに似ています。剣道八段はスキー界ではさしづめデモンストレーターというところでしょうか。デモンストレーターは、滑る姿勢の安定感はもちろん、スピードや躍動感も要求されるように、八段では姿勢の正しさや強さはもちろん、芸道としての品・位・格といった要素まで要求されます。高校から社会人まで、二流・三流選手の私がとても到達できる位でないと、最初から諦めていました。

ところが、46歳の時、受審資格ができるのに審査に行かない私を見て、ある先輩が言いました。なぜ挑戦しないのかと。私



ははつとしました。私にも可能性があるのか。私の八段挑戦はそこから始まりました。

八段審査は一次、二次の2回に合格しなくてはなりません。私レベルでは正直なところ一次審査を通過できれば上出来。当初はそこまで十分という気持ちでした。ただ、審査に挑戦し始めてからは、稽古では常に八段審査を意識していました。また、剣道の質の向上のため、常に課題を持って取り組みました。こうした成果で一次審査は何度か通過することができました。しかし、二次審査まで合格するのは夢のまた夢でした。

せいぜい二流選手だった私が、結果、八段審査に合格できた理由を、あらためてふり返ったとき、主に三つ思い当たります。

まず第一に剣道が好きであったことです。竹刀を持って相手と対峙する剣道は、柔道やレスリングと違って、戦い方によって体格差をカバーすることができます。体格に恵まれない私でも、長身の選手やパワーのある選手にも「一本」を決める可能性があったのです。そして、稽古を積めば積むほど技の世界が広がり、上達を実感できたのです。

第二は、自信を持つことができるようになったことです。多くの方々から励ましをい

ただき、やればできると感じられるようになったことです。実際「できる、できる、必ずできる」と、自分に言い聞かせて審査に臨んだときは、不思議と一次審査を通過することができたのです。

第三は、自分の長所・短所を見つめ、常に課題をもって稽古に取り組めたことです。また、課題を克服しようと工夫に努めたことが昇段につながったと感じています。

チームを何度も日本一に導いたプロ野球監督の野村克也氏は、「超一流や一流になるためには、人並み以上の素質が必要だが、超二流になら誰でもなれる。超二流こそチームのピンチ時に頼りになる。」と言っています。

私のこれまでの剣道人生を振り返った時、どう見ても一流ではなかったと思います。それでも八段の位を頂けたのは、「超

二流」になることができた結果だと感じています。

高高後輩諸君の多くも、様々な道で目標を掲げがんばっておられると思います。ぜひ、自分には素質がないと諦めかけたとき、「超二流には誰でもなれる」と信じ、工夫を重ねていただきたいと強く感じております。私もさらに剣の道の深淵に近づけるよう精進を重ねて参ります。

**特別  
寄稿**

**変わらないもの、変わるもの、  
変えなければいけないもの**

**丸茂 吉成**  
(山岳部・77期)

77期卒業生で山岳部に所属していた丸茂吉成と申します。

高崎高校卒業以来、一度も母校を訪れることなく、同窓会にも出席できず、群馬県内に居住しないまま40数年の月日が過ぎた私が、この翠巒体育会報への寄稿の機会を頂戴したこと、心より感謝致します。私は、高高卒業後、防衛大学校に進み、その後航空自衛隊に入隊、石川県小松基地での戦闘機パイロットとしての勤務を皮切りに、全国の航空自衛隊基地及び防衛省での勤務、米国への留学等を経て、最後は航空自衛隊トップの航空幕僚長職を務め、令和2年8月に退職致しました。

山好きだった亡父の影響から、高高では山岳部に入部しました。県内はじめ近県の山紫水明の山々を訪れた日々は今でも忘ることのできないものです。県の顔もあり四季折々の景色を見せてくれる上毛三山、天地を揺るがす雄々しき浅間山、神々しささえ感じさせる谷川岳、仙境と呼ばれる尾瀬沼、いずれの山々も自然の美しさと、時にはその厳しさを若かりし日の私に教えてくれました。航空自衛隊でパイロットとしての訓練中、群馬、長野、新潟上空にある訓練空域での飛行の折には、上空から見える上毛の山々の美しさに目を奪われることもありました。北関東付近での飛行の際には、地図と照合し

なくとも、また、飛行計器を確認しなくとも、山の形を見るだけで自分の位置を知ることができました。登ったことのある山々の標高、尾根や谷の特徴は、月日を経ても忘れるものではありません。何十年経っても変わらないものの一つが、故郷の山々なのです。

さて、高高卒業後の40年強に及ぶ自衛隊人生では、故郷の山々とは正反対に目まぐるしく変わる安全保障情勢、軍事技術の進展、自衛隊の役割の変化等を経験しました。戦闘機パイロットという稀有な職業を選択した私が、安全保障の第一線に立ち、国籍不明機から日本の領空を守る緊急発進(いわゆるスクランブル発進)を行った初めての相手は、ソ連機でした。しかし、間もなく冷戦も終結し、ソ連の崩壊とともにスクランブルが激減し、平和な世界の到来が予期された中はじまったのが湾岸戦争でした。湾岸戦争の勃発は、米ソ冷戦下で表面化しにくかった国境紛争、宗教や民族の相違などによる争いが多発する時代の到来を意味するものでした。技術が進歩し、正確に相手の目標を攻撃できる精密誘導兵器や、レーダーに映りにくいステルスと呼ばれる飛行機が出現し、戦いの在り方を大きく変えました。また、ロケット技術の発展・拡散が、北朝鮮のような貧しい国でも1000キロ離れた日本に脅威を与えるこ



とを可能にしました。そして、湾岸戦争で実証された先端技術に衝撃を受けた中国は、その後の経済的な成長と相まって軍の近代化に力を傾注することとなり、その結果、中国機に対するスクランブル回数は、湾岸戦争の頃にはほぼ0回であったものが、近年では年間で500～600回に及ぶほどになりました。また、物理的な破壊を伴わない、サイバー・電磁波といった攻撃も現実となっていました。このような状況の中で自衛隊の役割も国際平和維持活動への参加、ミサイル防衛、サイバー防衛、宇宙監視能力の獲得など拡大の一途をたどってきました。私が航空幕僚長として在任した間にも、日本で初となる宇宙関連の部隊を航空自衛隊に立ち上げました。

その一方で、日本は、絶対的な軍事力を有する米国との同盟関係の維持と四面環海という戦略環境の中で、戦後70年以上にわたり国の安全を確保し、経済的

カーエレクトロニクス グッズ&サービス  
**群馬電装株式会社**  
本部・サービス部：高崎市江木町117  
TEL.027-323-3622 FAX.027-327-6627  
<http://www.gunmadenso.co.jp/>  
代表取締役社長 川口 昌啓(剣道部74期)

**群馬トヨペット株式会社**  
前橋市石倉町 2-6-5  
TEL 027-251-5111(代) FAX 027-252-1251  
代表取締役社長 大山 駿作(剣道部71期)

**金井勉社会保険労務士オフィス**  
**金井 勉**  
(剣道部 66期)  
〒216-0031 川崎市宮前区神木本町2-9-1  
TEL.044-948-6591  
E-mail [kawai7@world.ocn.ne.jp](mailto:kawai7@world.ocn.ne.jp)

な繁栄を謳歌してきました。また、多少の国家間の対立も経済とは切り離し、政経分離といわれる状態が続いていました。しかし、今日の国家間の競争は、安全保障分野と経済が密接に絡み合い、むしろ経済が国家間競争の手段として用いられるようになってきたのです。尖閣諸島問題が先鋭化した2010年、中国が日本に対するレアアースの輸出を規制したこと、また、昨今では中国と米国が互いに貿易品への関税を高め合い、半導体や先端技術の輸出規制をしているのが最たる例です。今後の日本は、ロケット技術、精密誘導技術、通信技術等の進展に伴い四面環海という地理的利点の喪失、中国の台頭に伴う米国の力、特に相対的軍事優位性の低下という現実の中で、國の方向

性を決めてゆかねばならない時代を迎えることとなるでしょう。

言うまでもなく、高高は群馬県を代表する進学校であり、多くの卒業生が幅広い分野で活躍されていますが、私のように安全保障分野で、日々安全保障の現実を見てきた卒業生はごくごく少数であると思います。その特異な経験から言えることは、現在の日本の置かれた安全保障環境は、日々厳しさを増しており、尖閣諸島、台湾、南シナ海などにおいて、紛争の可能性は否定できず、戦後で最も厳しい時代を迎えているということです。また、その手段や領域もサイバーや電磁波、宇宙などと多様化し、経済自体も安全保障の重要な手段として用いられています。私たち自身の安全を確保するためにい

かにあるべきかを、従来のように一部の安全保障に携わるものだけが考えるではなく、経済界も含め多くの人々でしっかりと議論をする時が来たと感じています。

幾年を経ても変わらない万古不易の上州の山々、日々変わりゆく有為転変の安全保障環境、そのような中、ダーウィンのものとされる「強いものではなく、賢いものではなく、変化に対応できるものが生き残る」という言葉どおり、激変する環境に対応して変えてゆかねばならないもの、それは人々の安全保障に対する意識ではないかと感じています。

末筆となりましたが、在校生の皆さんに輝かしい未来に向かって、夢をもって進まれること、また卒業生の皆様方のご活躍とご発展を心より祈念申し上げます。



特別  
寄稿

## 頑張ろうニッポン コロナ(COVID-19)に負けるな!

濱野 哲敬

(硬式野球部・102期)

私は高崎高校102期の卒業生で、昨年度まで群馬大学医学部附属病院に勤務し、現在は高崎のサンピエール病院に勤務する整形外科医師です。整形外科の中でも特に専門としているのはスポーツ整形外科です。前赴任地の群馬大学医学部附属病院では毎年、小・中・高校球児の怪我を予防・早期発見するためのメディカルチェックを行っていました。これらの成果として小・中・高校生の肩肘痛の原因の一つが股関節の硬さにあることが判明し予防的な取り組みが始められました。これらの事実は日本、中国、英国、米国の医学雑誌にも掲載され、群馬県発の知見として各国で注目されています。これらの知見を球児ならびに指導者と共有することによって、群馬県内においては高校野球投手の肩肘痛有病率は過去5年で10%低下しました。球児に対するメディカルチェック以外にも高校野球甲子園予選の救護ドクターや群馬県代表の甲子園大会前検診も行い、群馬県高校野

球選手の障害予防やパフォーマンス向上に力を注いでいます。

私がこのような活動を続けていることのモチベーションの一つに、自分自身が高崎高校硬式野球部で3年間活動していたことが影響していることは間違ありません。私が在籍していた2000-2002年当時のチームは、甲子園出場を目指しながらも夢を叶えることはできませんでした。卒業後しばらくは無念に感じながら夏の高校野球大会をテレビで観戦していましたが、後輩たちの活躍する姿に励まれ、高校時代の経験を活かして後輩たちの力になりたいと考えました。当時私は群馬大学医学部の学生でしたが、当大学の整形外科が群馬県高校球児のサポートを行っていることを知り、大会救護ドクターの研修に行きました。そこで得た知見が球児たちの障害予防・パフォーマンス向上のために役立つことになると実感できたことで、本業として自身もスポーツ選手を支える立場として

携わりたいと思うようになりました。こういった経緯から現在は群馬大学整形外科教室の野球サポートチームの中心として小・中・高校球児に携わることができます。野球以外にも地元プロサッカーチームの帯同ドクターや、国体のアイスホッケー大会の救護ドクター、高校総体のボクシングリングドクターなど、自身の知識や技能をスポーツ界のために使っています。

趣味として行っているゴルフでは障害者ゴルフ選手とラウンドを行い、パラアスリートのスポーツに対する姿勢を学びました。2019年に世界ランキングが設立されたパラゴルフは、東京2020でこそ正式種目ではないものの、2028年のロサンゼルスパラリンピックにおいて正式種目になることを目標としています。現在私はパラゴルフを広く一般に知ってもらうための



群馬セラミックス株式会社

取締役会長 小貫 諭 (水泳部 69期)

本社工場 群馬県藤岡市上大塚1713-2

〒375-0054 TEL:0274-22-2096 FAX:0274-24-4974

吉井工場 群馬県高崎市吉井町小字792-1

〒370-2111 TEL:027-387-8677 FAX:027-387-8678

E-mail:onuki@guncera.co.jp

http://www.guncera.co.jp/



株式会社 山岸製作所

薄肉切削(旋盤)加工のエキスパート

専務取締役 山岸 祐二 (水泳部 79期)

浜川本社工場 高崎市浜川町590-23 Tel.027-360-4100

八幡工場 高崎市剣崎町21-1 Tel.027-387-0505

総合探偵社 シークレットジャパン群馬

群馬県公安委員会 証明書番号第42170018号

<https://secretjapan-g.com>

身辺・信用等の行動調査及び民事の被害対策など...

代表 松井 高志 (水泳部 81期)

〒370-0824 群馬県高崎市田町74-3 PALACE TAKASAKI 4F

TEL 0800-700-4869 E-mail: info@secretjapan-g.com

活動に携わっており、2028年パラリンピックでの正式種目化に向けてさらに力を注いでいく所存です。

以上のスポーツ後援に対する活動を東京2020オリンピック・パラリンピックスポンサーであるNTTさんに評価・選考していただきたことで、聖火ランナーを走らせていただきました。当日は沼田市役所前の沿道を約200mに渡り走りました。

聖火の灯ったトーチを持って走りながら、自分自身のスポーツ後援活動の礎となっている高校時代のかけがえのない経験が頭の中を巡りました。それらの貴重な経験をさせていただけたことは高崎高校の諸先輩方が積み上げた歴史と伝統によるものと思います。そしてその経験を後輩のために活かしたいと考えられたことは、後輩の皆さんのが活躍を感じることができたから

です。これからも高崎高校同窓会のご縁を大切に、地域に貢献できる活動に尽力するつもりです。伝統より更に栄えあれ。

※コロナ禍の状況において、オリンピック・パラリンピックの開催については議論があるところですが、仮にオリンピック・パラリンピックが無事に開催できたならば、開催してよかったですと思えるような大会になることを願ってやみません。

## ソフトテニス部 青春の糸

KIZUNA

荒井 宏和(82期)

### 天の絶妙なる采配に感謝

「俺はお前みたいなお坊ちゃんが一番嫌いなんだ!」と怒鳴って私の左頬を思い切り平手打ちしてくれた青年がいた。今なら問題となることだろうが、そのことで私が奮起したのであるから、有難いことである。その青年は、かつて私が中学時代に軟式庭球の新人大会決勝で負けた時に、会場であった高高庭球コートの横で私に声を掛けてきた人であり、その後、彼との約束通りに私が高高軟式庭球部に入部することを導いてくれた恩人である。

当時の彼は、今の私より27歳近く若い熱血体育教師であった。当時の私にとっては、少し年の離れた兄のような存在であった。高高軟式庭球部には、波多野先輩をはじめ素敵な兄貴たちが沢山いて、長子であり弟しかいないわたしにとっては、彼らに甘えられるのが嬉しくて、部活動の時間が楽しくてしかたなかった。また、同期を見渡せば、全中のチャンピオンやら、かつての宿敵チームの面々、倉渕の強剛に櫻名の雄など、猛者揃いであり、天の絶妙なる采配に感謝した。顧問の彼は熱心だし若々しいし、面白いことになりそうだという予感があった。

物語の最初の事件は1年生の秋の一年生大会で起こった。高高から出場した4ペアがすべてベスト8に進み、そのうちの3ペアが一、二、三位を占めたのである。今回のチームはいけると彼も確信したはずである。どこから予算を持ってきてくれたのか、私たちはよく遠征試合に出掛けた。そのおかげで、知らず知らずのうちに「旅」を重ねることができた。前年の高校チャンピオン校の東京の巣鴨高校へ行って対戦し、「たいしたことねえな」と生意気にも妙な自信を得た。名門である奈良県の高田商との練習試合の後、仲間たちと夜の散策に繰り出したものの、ど田舎で外燈もなく、右も左も上も下もわからなくなり、迷子になりそうだった。それとは別に、一学年上の野球部が高高創部以来初の春の高校野球全国大会出場となり、私たちも皆で甲子園に行って声を張り上げた。

しかし、甲子園から帰り、新しい学年に入った4月、思いもかけない事実が伝えられた。一番年長の兄貴が高高を去るというのである。ただの高校生である私たちは、抗議しようにも手が無く、それに伴う顧問の交代も受け容れるしかなかったのだが、全く納得ができなかった。(私たちは、高高を惜しみつつ去っていった彼と共に本気で全国大会優勝を成し遂げる予定でいたのですから…。)

2年生になった私たちは、そのうちの4人が団体戦でレギュラーとなり、常に上位を競っていた。しかし、個人戦でも団体戦でも、どうしても頂点には立てず、準優勝止まりで推移していく。農大二高が強かつた。一学年上の先輩たちが引退して、2年

生の秋に私たちが最上級となり、新しいチームが編成された。主将になった私は、部室の黒板に「全国優勝」と書き、他の部員に消されても、また書き直した。新しい顧問とは何となくしつりこなかったが、私たちの心の内には、常に丸山博という兄貴がいた。「大丈夫!大丈夫!おまえたちらできる!」そういう声がいつも聞こえてくる…ありがたい声だった。

思い出は尽きない。2年生の春の関東大会でのぞき見した女風呂。S先輩は翌日の試合では絶好調だった。京都の修学旅行にラケットとボールを持参し、鴨川ベリで朝練をして幾つもボールを鴨川に流した。鹿児島インターハイの試合後の桜島観光では、バスガイドの薩摩おごじょに惚れてしまい、帰りの飛行機ではJALの客室乗務員の肩に手をまわしたポーズで写真撮影し、「10年早いわよ!」とピシャリ。そう言えば、最後の夏の県団体戦では、峰先輩の率いる高女が優勝して、高高高女アベック優勝となった。同期で同じクラスだった天笠君率いるラグビー部も花園出場し、サッカーチームも全国サッカー出場、私たちと同様にバスケットボール部も県大会はすべて優勝していた。同期の同志たちは本当に不出来な私に協力してくれた。忍耐強く寛容な君たちには心からありがとう!と言いたい。そして、いつも激励して応援してくださいました勝俣OB会長をはじめとするOBの皆様、ありがとうございました。私たちは本当に恵まれていました。高高軟式庭球部が皆様のご支援のおかげで大きく花開いたときに、その場に居合わせていただけた幸運に、また、そこに導いてくれた

(山岳部79期) キッチン・バス・トイレ・耐震・省エネ  
**リフォーム工房**  
**株式会社スカワ**  
地域と共に50年  
代表取締役 須川 光一  
高崎市倉賀野町1717 (倉賀野駅南口駅前通り)  
TEL 0120-827-026 リフォームスカワ

山岳部OB(84期)  
**代表社員・税理士 真下 哲夫**  
**税理士法人 真下経営**  
高崎市倉賀野町3557-4 TEL 027-346-1463

山岳部OB(78期)  
**税理士 吉井 章一**  
**吉井章一税理士事務所**  
高崎市上中居町251 TEL 027-328-6701

丸山博さんに、さらには当時高高以外の高校で軟式庭球部に在籍して高高庭球部の私たちと対戦して敗者役を引き受けてくれた仲間たちに心からの感謝を!



KIZUNA

丸岡 哲也(103期)

## 高高で学んだこと

在学当時、学業では底辺を支え、とにかく部活の事だけを考えて通学していたことを思い出します。そんな私が高高的OBの皆さんのもとに届く翠巒体育に原稿を書くことは少し恥ずかしくも感じますが、せっかくの機会をいただいたので、思い出を振り返りながら執筆させていただきます。

私は、尊敬する恩師の勧めで中学校からソフトテニスを始めました。当時の目標は『群馬で一番になること』。部活中心の毎日でしたが、目標にはあと一步届かず引退を迎えました。高校でその目標を達成するために中学時代の恩師の母校でもある高崎高校への進学を決意しました。

顧問の先生方からは高高生らしく“頭を使ったテニス”を学ぶことができました。相手を分析して試合を組み立てることで、ソフトテニスの楽しさをさらに深めることができました。また、先輩方は技術だけでなく人間的にも尊敬できる方ばかりで、高校生活の厳しさとともに、楽しさもたくさん学ばせていただいたことを覚えています。

そんな先輩方から代を引き継ぎ、主将として迎えた最高学年。中学時代からの目標を達成すべく、仲間達と日々、努力を重ねました。しかし、新人戦は準優勝、冬のインドア大会はベスト4、総体では4位と団体戦ではなかなか結果が残せず、最後のインターハイ予選を迎えるました。自分の目標はもう達成できないのではないかと弱気になってしまっていました。順当に勝ち上がり、準決勝でその年、県内無敗の農大二高との対戦となりました。負ければ引退。相手は前年度、全国3位の実力者。緊張はピークに達していました。その時、応援から聞こえてきた

言葉「みんなで行こうぜ、長崎へ」の言葉は今でも忘れられません。戦っているのは自分達だけではなく、応援の仲間たちも本気で戦っているのだと強く感じ、鳥肌がたちました。後から聞いた話では、レギュラーメンバーに隠れて応援の練習をずっとしてくれていたのだとか。その日の会場で間違いなく一番の応援でした。みんなの応援と支えで勢いがうまれ、農大二校を撃破し、そのまま優勝まで駆け上ることができました。団体でのインターハイは21年ぶりということでOBの皆さんにも大変喜んでいただき、祝勝会を開いていただいたり、長崎インターハイではたくさんのご支援をいただいたりしました。

それまでの私は自分の目標のために努力を重ねてきましたが、自分の周りにはたくさんの方の支えや応援があることに改めて気づかされました。素晴らしい先生方、尊敬できる先輩方、本気で高め合える同期の仲間、自分を信じてくれる後輩達、いつまでも応援してくださるOBの方々、そんな皆さんとの出会いは、大きさではなく、自分の人生を豊かにしてくれたと思っています。

現在、私は県内の小学校で教壇に立っています。そこで子供たちに常に伝えていけることは『支え合うことの大切さ』です。高高でソフトテニスを通して学んだことを一人でも多くの子供たちに伝えることが自分の役目だと信じ、今後も教育に携わっていきたいと考えています。

最後になりますが、大切な出会い、貴重な経験と学びを与えてくれた高高ソフトテニス部が、今後も県内、全国で活躍できることを祈っています。



KIZUNA

清水 健一(104期)

## 部活動で得たもの

私は中学からソフトテニスを始めました。入部の動機はなんてことないことではありました。が、先生や先輩、後輩にも恵まれ、気づくと根っからのテニスバカと自負できるほどソフトテニスが好きになって

いました。最後の大会で念願の県大会に出場することはできましたが、関東大会決定戦で惜しくも負けてしまいとても悔しい思いをしたことを今でも忘れません。また、試合後先生から暖かい言葉をもらい涙を流したこと覚えていています。この悔しい気持ちをバネに自分らしいテニスをするために高崎高校へと進みました。

高校という新しいステージで色々な方から刺激を受けつつ部活に励み、その一方で悪戦苦闘しながらも勉強にもなるべく専念しました。初めは怖かった(自分の中では)先輩たちも人一倍テニスに対する気持ちが強くとても負けず嫌いでした。そんな先輩たちからはテニスの面白さや辛さ、先輩としての役割の果たし方を学びました。先生方はそれぞれのスタイルはあるものの一つの目標のためにあれやこれやと工夫してください、自分たちの時間を惜しんで指導に当たってくれました。時折先生から当時の私たちにとって難解すぎるアドバイスを受け、頭を悩ませた事も良い思い出です。また「うちは他校と比べたら絶対的に練習する時間が足りない。その分頭を使って考えるテニスをして勝て」や大会当日の朝に「今日は馬鹿になってテニスをしろ」など記憶に残る様々な言葉がけで私たちに考える大切さや気持ちの持ち方を教えてくれました。そんな先生たちだからこそ最後まで信頼することができました。後輩も実力もあり頼りになるやつらばかりで、先輩としては毎日背後から抜かされないようにめちゃくちゃ必死に練習をしていました。そうやって良い緊張感を与えてくれたことは部活動全体がレベルアップを図る良い材料になり言葉には出せませんでしたが感謝しています。

私が高校生活の部活の中で印象に残っていることは自分の代で2年連続の団体戦インターハイ出場が果たせなかつたことです。個人ではインターハイに出場することはできましたがその嬉しさよりも団体でインターハイに出場することができなかつた悔しさの方が勝っています。なぜなら前年に先輩たちが21年ぶりの団体インターハイ出場を果たした時の選手

**目指せ! 全国制覇**  
**チャレンジ** ソフトテニス部  
高中庭球部応援歌より  
あゝ東西の両洋に テニスの覇者をうたわれし  
好漢清水を出したる 我等は高中健兒なり  
ソフトテニス部 OB会

1級建築士事務所 群馬県知事第2146号  
有限会社 田口総合設計  
創業57年 群馬県知事(16)98号  
有限会社 田口不動産 1級建築士 田口恵一  
(74期 ソフトテニス部 OB)  
〒370-0846  
高崎市下和田町一丁目1番1号 TEL 027-322-2492

**木村動物病院**  
高崎市吉井町池1369-1  
TEL 027-387-2520  
**城南大橋どうぶつ病院**  
高崎市寺尾町2623-6  
TEL 027-384-3000  
72期・100期 ソフトテニス部 OB

や控え、応援、先輩後輩関係なく高崎高校一丸となって優勝できた時の感動が忘れられなかったからです。あの時はみんなが同じ気持ちで一球一球で一喜一憂し、良い緊張感で試合をしていました。準決勝の農大二校戦、本当に手に汗握る試合展開でした。しかも向こうは最強のメンツ、それを撃破した先輩たちはまさにヒーローでした。決勝戦の前橋商業戦は準決勝から続く怒涛の波で見事に圧勝、素晴らしいかったです。この時の感覚をもう一度自分の代でみんなと一緒に味わいたいと思い続け最後のインターハイ予選団体決勝に臨みました。相手は前橋商

業、個人戦で負かした相手。あえてぶつけてきたんじゃなかという強気なオーダーで挑んできました。3番勝負までもつれ込み相手のマッチポイント。結果は準優勝、本当に悔しかった。「優勝はできなかったがそれでも頑張ったよ」と声をかけてくれる人もいたけれど割り切ることができないことも中にはありますよね。決勝最後のポイントは今でも鮮明に覚えています。

この後個人のインターハイではコートに立った時のその時にしか感じられない場の雰囲気や頭が真っ白になりそうになりながら必死で打った1本目のレシーブがホームランだったこと、インターハイ決勝

の最後のポイントがまさかというような劇的な最期で終わったことなど、良い意味でインターハイでしか得られない経験もたくさんさせていただきました。

ソフトテニス部での3年間でテニスの楽しさや同じ目標に向かって切磋琢磨する仲間の大切さ、努力し続けることの大切さ、悔しさを次に繋げる心の持ち方、周りの方々に感謝することの重要性など人として生きていくための基礎を学ぶことができました。今ソフトテニス部で頑張っている後輩たちが自分たちの目標に向かって全力で力を出し切ることができるようOB一同心から願っています。

## 2020事業報告

4 7日 ● 第1回役員会議  
(メーリングリストにて)  
14日 ● 第1回編集会議  
(メーリングリストにて)

5  
6 ● 第2回編集会議  
(メールにて)  
11日 ● 監査役会  
● 第2回役員会議  
(メールにて)  
● 第46回定期総会  
(メールにて承認・決議)

7 20日 ● 翠巣体育第39号発行

8

9 2日 ● ゴルフ大会役員会議  
13日 ● 第30回ゴルフ大会  
26日 ● 高崎高校寄付  
(ゴルフ大会より)

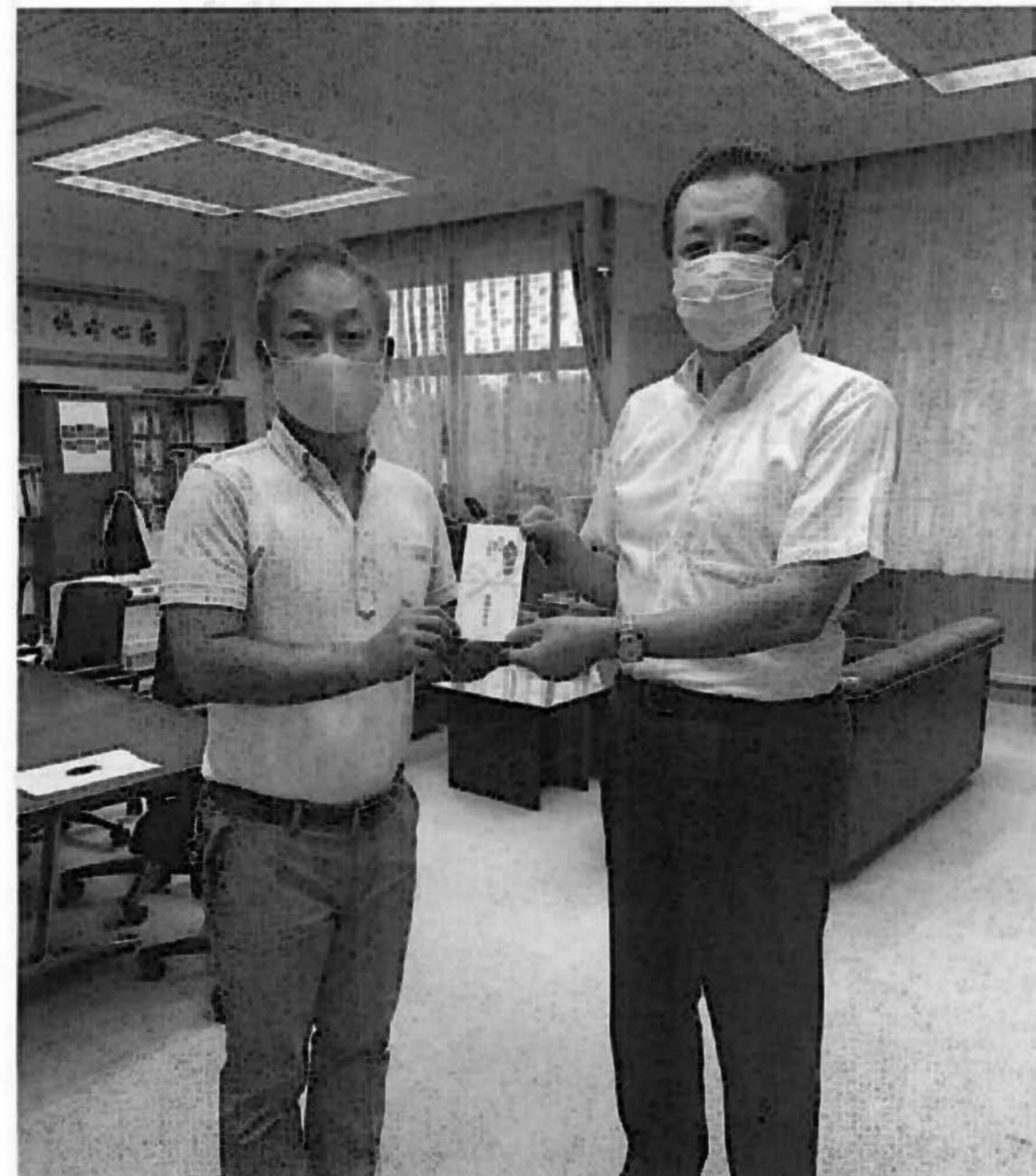
10 1日 ● 陸上関東大会出場  
祝い金贈呈  
11日 ● 高前OB対抗ゴルフ大会  
23日 ● 弓道、軟式野球(関東大会)  
祝い金贈呈

11 10日 ● 高崎高校マラソン大会  
優秀者表彰

12  
1  
2

令和2年4月1日～令和3年3月31日

3 1日 ● 高崎高校卒業式  
19日 ● 柔道部全国大会出場  
祝い金贈呈



### ○ 総会・WFK・忘年会等の中止

バレーボール部／武山 雄海(102期)

新型コロナウイルスの感染拡大が、集会や研修、出張の中止、時短や時間差出勤、テレワークの拡大など、日常生活や仕事に大きな影響を及ぼす中、翠巣体育会の2020年度行事である総会・活性化忘年会・WFK(若手を増やす会)も残念ながら中止となりました。

自粛を機に人と直接会う機会が減り、これまで当たり前だと思われてきた様々な事柄の見直しが行われ、コミュニケーション



社会福祉法人 愛善会

はなだか

鼻高こども園 上滝こども園

國峯 善次郎(50期) 國峯 賢一(74期) 國峯 義仁(106期)  
(サッカー部) (サッカー部) (和太鼓部)

かみたき

上滝こども園

國峯 善次郎(50期) 國峯 賢一(74期) 國峯 義仁(106期)  
(サッカー部) (サッカー部) (和太鼓部)

めまい・補聴器・アレルギー  
各種日帰り手術

**清水耳鼻咽喉科**

院長 清水 祐二(サッカー部73期)

●診察時間 午前 9:00～12:30/午後 2:30～6:30 ●休診日 日祝祭日・土曜日午後  
高崎市京目町321-4 ☎ 027-353-4533 <http://www.shmz-ent.com/>

## ■ 第30回ゴルフ大会結果

## ●団体戦

順位	運動部名	GROSS
1	硬式野球	318
2	ラグビー	336
3	陸上競技	342
4	剣道	364
5	サッカー	376

## ●ネット個人戦

順位	氏名／運動部名	高崎	岩平	GROSS	HDCP	NET
1	表野真拡(22)	36	40	76	6.0	70.0
2	庭田登志男(柔道)	41	45	86	15.6	70.4
3	濱野哲敬(野球)	37	36	73	1.2	71.8
4	渡邊俊裕(サッカ)	35	37	72	0.0	72.0
5	伊原大介(野球)	38	39	77	4.8	72.2

## ●グロス個人戦

順位	氏名／運動部名	高崎	岩平	GROSS
1	渡邊俊裕(サッカー)	35	37	72

## ■ 高前OB対抗ゴルフ大会結果

高崎831ストローク：前橋843ストローク  
高崎勝利

順位	氏名／学校名	OUT	IN	GROSS
優勝	小林 史明(高崎)	38	38	76
準優勝	櫻澤 勉(高崎)	38	39	77
3位	伊原 大介(高崎)	38	40	78
4位	木内 寛樹(高崎)	37	42	79
//	小保方 徹(前橋)	39	40	79

ションのデジタル化やサービス・モノ提供の非接触化など、効率的なツールを利用することが一般的になってきています。

しかし、過剰なまでに社会的距離をとる必要性が生じたことで、心理的に家族や友人など人とのつながりを求めたり、対面せずコミュニケーションをすることに多少なりとも抵抗感を感じたりと、リアルに自由に人と会えることの大切さを見直すきっかけにもなっていると思います。

新型コロナウイルス終息後には、改めて諸兄とのつながりの大切さを基軸とし、コロナ禍での教訓を活かし距離や時間のハードルを越えて新たな交流を持てるよう、総会や忘年会の対面・非対面での同時開催や様々なツールの活用など提案していきたいと考えております。

## テニス部OB(84期)

## 山口正仁

オーダーメイドの生命保険をお届けしています!  
ブルデンシャル生命保険株式会社 品川第二支社  
TEL 03-6682-4440 携帯090-9309-9492

## ■ 令和2年度 翠巒体育会会計報告

## 収支計算書（自令和2年4月1日 至令和3年3月31日）

科 目	金 額	摘 要
<b>収入の部</b>		
年会費収入	375,000	15部
同窓会補助金	300,000	高崎高校同窓会
広告費収入	315,000	15部
親睦会収入	0	中止
ゴルフ大会収入	120,000	令和2年9月13日 サンコー72カントリークラブ
翠巒体育忘年会収入	0	中止
雑収入	2,000	同窓会ゴルフ補助金、祝金 会議個人負担、寄付金等
受取利息	7	群馬銀行
(当期収入合計)	(1,112,007)	
特別会計取崩金	0	特別会計より取り崩
前期繰越収支差額	741,207	
収入の部合計	1,853,214	

科 目	金 額	摘 要
<b>支出の部</b>		
総会・親睦会費	0	中止
現役等補助金	206,852	関東大会、インターハイ等 出場の運動部、 マラソン大会
会報発行費	441,100	「翠巒体育」第39号
ゴルフコンペ費	0	令和2年9月13日 サンコー72カントリークラブ
W.F.K (若手を増やす会)	0	中止
翠巒体育忘年会費	0	中止
慶弔見舞金	26,500	生花等
事務用品・通信費	210,000	ホームページ管理費等
会議運営費	47,393	編集会議、役員会議等
銀行振込手数料	660	群馬銀行
(当期支出合計)	(932,505)	
特別会計拠出金	0	特別会計への拠出金
支出の部合計	932,505	
(収支差額)	(179,502)	(当期収入合計) -(当期支出合計)
次期繰越収支差額	920,709	収入の部合計 -支出の部合計

## 財産目録（令和3年3月31日現在）

科 目	金 額	摘 要
<b>資産の部</b>		
現金	24,157	現金手許有高
預金	896,552	群馬銀行高崎栄町 (普)#0783238 一般会計分
正味財産	920,709	

## 特別会計（令和3年3月31日現在）

科 目	金 額	摘 要
<b>資産の部</b>		
普通預金	801,519	群馬銀行高崎西 (普) #0593363 特別会計分
特別会計財産	801,519	

翠巒体育会がより一層OBの皆様・現役生にとって有意義な会になるよう、微力ながら尽力して参りたいと存じます。

## ○ 第30回ゴルフ大会 団体戦優勝

硬式野球部／伊原 大介(94期)

94期卒業生の伊原大介と申します。昨年度、サンコー72にて開催された翠巒会体育ゴルフコンペに、硬式野球部OBとして参加させていただきました。ありがとうございました。

同コンペの結果は、硬式野球部がラグビー部との決戦を制し、見事に優勝!ハイレベルな接戦となりましたが、2年ぶりの大会制覇を実現することができました。

私自身、普段は群馬県内の一般企業に

勤務しており、勤めている会社の一員という意識が強くなってしまうのですが、この翠巒体育ゴルフコンペに参加させていただき、高崎高校OBの一員であるという実感とその喜びを改めて持つことができました。

社会人として数多くの経験を積まれ、ご活躍されている諸先輩方とスポーツを通じ、在籍当時の高校生活の話なども交えながらお話をさせていただいたことが本当に貴重な体験となりました。

高崎高校で掲げられる「文武両道」の精神は、私にとって本当に大きな財産となっています。高高生の取組姿勢や当たり前のレベルは本当に高いと感じます。

部活動も比較的強く、勉強もできる、そして、それ以上に人としてしっかりしている

## テニス部OB(91期)

## 原 寛

カネト水産 つりばり・虹鱈料理・手打ちそば  
高崎市倉渕町川浦3900-156 TEL.027-378-3132  
ホームページ <http://www8.wind.ne.jp/wakaba/>

## 芸大美大美術系高校 受験予備校 高崎美術学院

高崎市岩押町35-12 ☎027-322-6548

<http://www.art-takabi.com>

## 社会人のための 美術教室 アートフォーラム高崎

高崎市岩押町31-11 ☎027-326-5585

<http://www.art-takabi.com/artforum>

代表 北村 真行 (テニス部85期)

というのが高生の良さだと思います。その遅く、爽やかな文化が今後も継続し、発展することを心より願っています。

翠巒会体育ゴルフコンペをさらに盛り上げるべく、若手OBにも積極的に声をかけていきたいと思います。次回も参加させていただき、必ず優勝したいと思います。

### 第30回ゴルフ大会 個人優勝

ラグビー部／表野真拡(83期)

ラグビー部37期のフランカー表野真拡です。翠巒体育会ゴルフ大会の個人戦で幸運なことに優勝の栄誉を頂きました。今回はコロナ禍での開催でしたので、

感染防止の対策を講じながらのラウンドとなりましたが、久々のストレス発散の機会になりました。開催にご尽力いただきました役員の皆様方には大変感謝申し上げます。

若い頃に、ゴルフに誘われることもありましたが、腰痛持ちの為、ゴルフは遠慮していました。50歳の時、仕事の成り行き上、どうしてもゴルフをしなければならなくなり、同期の山口裕史君(サッカーハイ)にゴルフクラブの用意やスイングの基本を一から教えていただきながら始めたゴルフですが、これが意外と面白く、翠巒体育会コンペにも6年連続参加しています。最初はスコア120でしたが、今回グロス76、ネット70での優勝となりました。

た。高高的同窓と廻るゴルフは、大変に楽しくのびのびできたのが好スコアにつながったようです。普段は緊張からか、かなり力んだスイングばかりでOB連発なのですが...

次回は、翠巒体育会長の大田部功君を先頭にラグビー部ワンチームとなって、渡邊先輩、吉田先輩を中心としたサッカーハイ、選手層の厚い硬式野球部を倒し、団体初優勝を目指し頑張ります。ラグビー部の方、多数の参加をお願いします。

最後になりますが、次回のコンペは、コロナウイルス感染症も沈静化し、多くの参加者のもと例年通りのワイワイやりながら表彰式も行えるような開催ができることを願っています。

## OB 各運動部OB会の近況報告



### 陸上競技部

茂原 賢三  
(89期)

### 陸上競技部OB会の活動報告

の前にお知らせ致します。

元陸上競技部顧問でお世話になりました岩井寿史先生が、昨年10

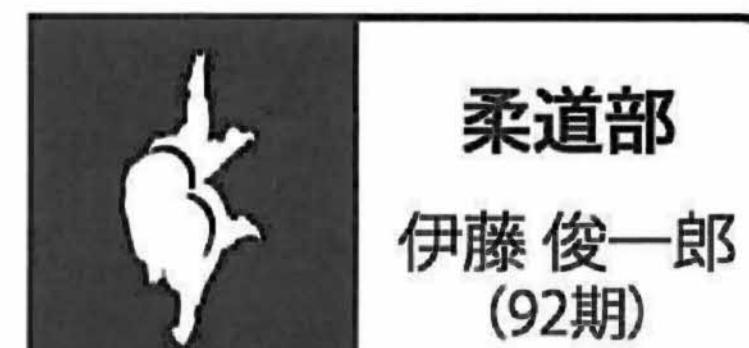
月に急逝されました。享年66歳という、まだまだお若くありました。

岩井寿史先生は、昭和62年に高崎高校に赴任されて以来10年間にわたって本校陸上競技部の指導をされました。その間には全国インターハイや国体に出場する優秀な選手を育成されたことはもちろんですが、なによりもそれ以上に、岩井先生が赴任されて以来、陸上競技部員生徒数が増加したことが、岩井先生の指導者としての功績であります。他の部を退部した生徒を見つけて、陸上競技部に入部させた例は幾つもあり、“岩井先生に救われた”思いを抱いている教え子は多数存在します。また、陸上競技部以外の他部活動の生徒に対しても面倒見が良く、とりわけスキー部・ラグビー部・テニス部等の部員の中には、岩井先生の薰陶を受けた方が、多数いらっしゃいます。昨秋の告別式の際には、コロナ禍にも関わらず、前述の陸上競技部以外の運動部員OB・翠巒体育会員が多数参列し、岩井先生のお人柄を偲ぶことが出来ました。あらためてここに、これまでの岩井先生のご指導に厚く御礼申し上げると共に、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

さて、昨年度の陸上競技部OB会の活動ですが、他部OB会と同様に、コロナ禍の影響により、OB会総会・懇親会や現役部員への大会応援・激励等の例年の活動は出来ずじまいであり、唯

一、「紙面による総会」と現役卒業生(&新会員)への記念品(OB会オリジナルネクタイ)の贈呈が“活動らしい”と言えるものでした。編集委員の私自身にとっても「翠巒体育会報の原稿に何を書いたらいいのだろう、何か活動の様子が分かる写真や画像は無いだろうか…?」という、たいへん悩ましい日々を過ごしました。「新しい日常」が求められている今日この頃であります。同時に「これまでの日常」の良い点についてもあらため実感することが出来ました。

今年度の活動についても、先行き不透明であります。陸上競技部OB諸兄全員で全力で甲斐俊輔OB会長(87期)を支えながら進めていきたいと考えています。皆様の御協力を御願い申し上げます。



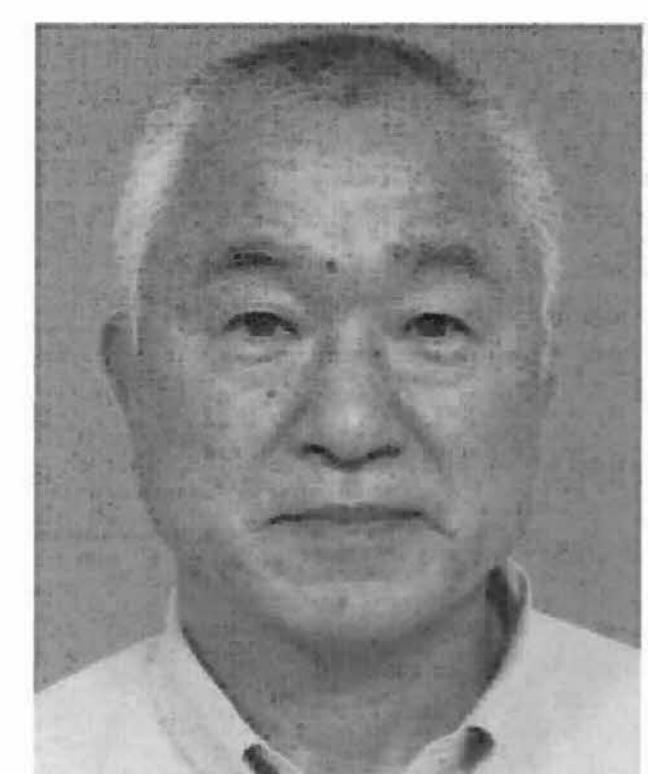
### 柔道部

伊藤 俊一郎  
(92期)

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止を行う為、年明け1月3日の恒例であった現役・OB合同の稽古始め、及びOB会新年会が実施できませんでした。

このような状況ではありましたが、明るい話題もありました。それは、柔道部OB会 鳥居 吉二 会長(73期)【写真】が、令和3年4月4日に群馬県柔道連盟総会の議決を経て、同連盟の会長に就任されたことです。

県柔連会長となった鳥居会長に、群馬県柔道界全般についてお聞きすると、「(コロナ禍により)2020年3月にぐんまアリーナで実施予定だった全国高



**サンエス工業株式会社**  
代表取締役 清水 威 (硬式野球部・85期)  
本社 高崎市下室田町1159-2 TEL 027-340-1581  
高崎工場 高崎市町屋町710 FAX 027-340-1591

**株式会社 研屋**  
創業明治11年  
総合建設業・一般建築士事務所  
製材・プレカット・アスウッド  
専務取締役 清水 正郎 (硬式野球部・75期)  
本社／高崎市飯塚町805 TEL 027-361-5095

**硬式野球部OB ハワイオーター**  
小林 均 (77期)  
有限会社 小 金  
〒370-0865 群馬県高崎市寺尾町1614  
TEL 027-325-4411(代) FAX 027-325-4445

校柔道選手権が中止となったことは残念でならない。本年度は8月22日から25日に、39年ぶりに群馬県で全国中学校柔道大会が開催予定なので、成功に期待したい。また、8年後に国民体育大会(2023年以降「国民スポーツ大会」に名称変更予定)が群馬県で開催されるので、柔道をはじめ全てのスポーツの活性化を願うと共に、全ての年齢層がひとつになって盛り上がってほしい。中高生に関しては、「一生涯でこの時期しかできない一途さで、柔道やスポーツに向かってほしい。」とのことでした。

そして、インタビューの最後に、母校の柔道部OB会長として、「私が柔道で得たものをひとつでも、若い高高生に伝えたい。体を鍛え、技を磨き、仲間との交流を深め、充実した時間を過ごせるよう支援していきたい」と述べられました。



スキー・スケート部  
寺澤 佑介  
(95期)

いつもOB諸兄、および関係者の皆様には大変お世話になっております。

新型コロナウイルスの蔓延、い

まだに収束を見ず、心配な状況が続いています。

ご自愛のほど心よりお祈りしております。

毎年、十一月に高崎市内で行っていたOB総会、懇親会ですが、昨年度は新型コロナウイルスの影響で中止となりました。

昨年はスケートの方で、三年生の部員が一名おりました。

現在、わたしがこれを執筆している段階(五月)では、現役生の部員はいないと聞いております。

これまでOBの皆様におかれましては、現役部員の支援のため、沢山のお力を借りて参りました。

ウインターリースポーツ、特にスキーはお金がかかるスポーツです。そのような方面でOBの皆様にご支援をいただき、現役生の力になってきたのではないかと思っております。

ところが、肝心の現役の部員の方は、近年、減少の方向が続いておりました。

そして今年度は、真に残念ながら現役部員がいないという状況を迎えてしました。

伝統あるスキー・スケート部を、元気な形で持続させていく、次の世代につなげていくのは、OB一同の願いであります。

もしOBの皆様の中で、現役生のお知り合いがいらっしゃるという方がおられましたら、是非入部を勧めていただければと思います。

どうぞ宜しくお願ひ致します。

コロナウイルスの状況次第かと思いますが、今年の十一月には総会、懇親会の方を行えれば幸いです。

OBの皆様、関係者の皆様のご健康をお祈りしております。

スキー・スケート部OB会の方、どうぞこれからも宜しくお願ひ致します。



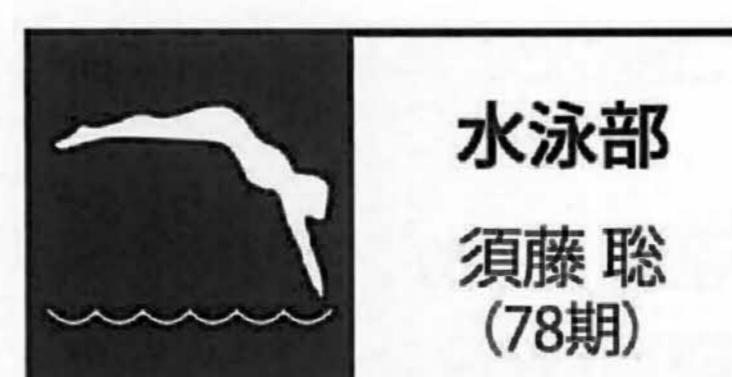
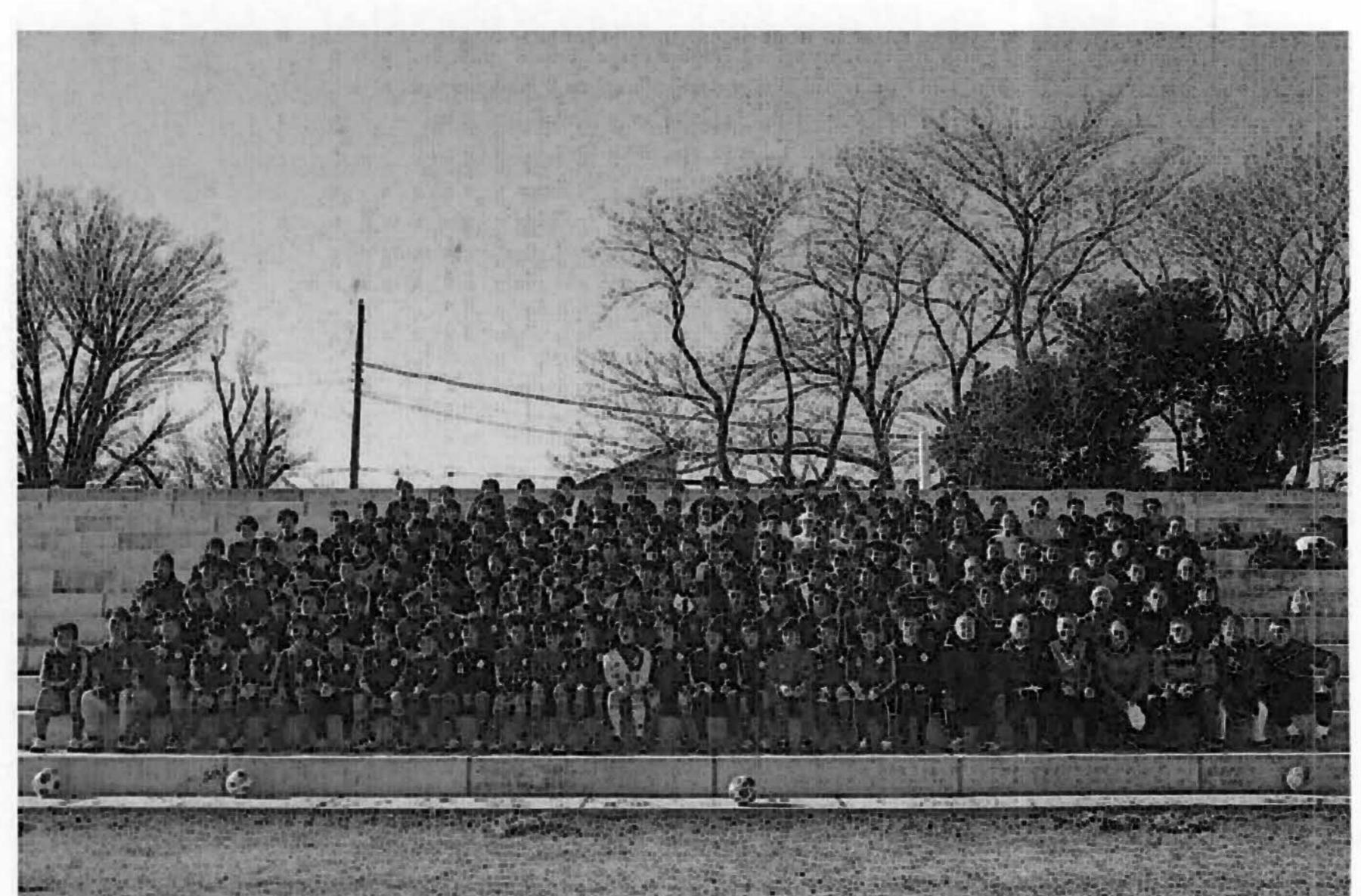
サッカーチーム  
佐藤 雄一  
(97期)

サッカーチームのOB会活動は、社会人チームである翠巒サッカーチームの活動を柱として、初蹴り、総会・新年会、前橋高校サッカーチームとの定期戦という恒例行事のほか、現役保護者会や翠巒体育会等への参加を長年続けてきました。

私自身、約20年間翠巒サッカーチームに所属し、そのおかげで多くの同期や先輩、そして後輩と、サッカーを通じて交流を深める機会を得ることが出来たし、その縁もあり数年前からOB会の事務局を任されております。

しかし、このコロナ禍において、現在サッカーチームのOB会活動は残念ながら休止の状態にあります。さらに、近年は会員が933人と大台に迫る一方で、現役生支援の原資となる会費納入の伸び悩みや、活動の柱であった翠巒サッカーチームの活動休止など、「現役の支援」と「会員の交流」というOB会が果たすべき役割をどのように実現すべきなのか、課題が顕著になっています。とりわけ、次代を担う若い世代にどのようにOB会の存在意義を感じてもらい、参画してもらえるのか。翠巒体育会に所属される皆様も、きっと同様の悩みを抱えていらっしゃるのではないかでしょうか。

最後に、私事ですが、この4月に私の職場に配属された新規採用職員が何と高々サッカーチームの後輩でした。そのことを本人から突然告げられた時の嬉しさは何とも言えないものがありました。私は彼の現役時代を知りませんが、無条件に応援したいと思います。さすがにそんな経験は稀かもしれません、「OBが自然と現役生を応援し、その活躍を楽しみながら、同期、先輩、後輩の交流が広がる」OB会がそんなサイクルの一助となれば幸いです。



水泳部  
須藤 聰  
(78期)

高高水泳部には強い先輩がいる! 昭和50年度高校総体優勝。県合宿ではいつも先頭で練習を引っ張っていた野村照夫さん(76期)

がいることは承知していたが、他にも県民体育大会で優勝した

製鋼原料・非鉄金属  
産業廃棄物収集運搬・計量証明

**上越鋼業株式会社**

代表取締役社長 波瀬 憲昭 同窓会副会長  
高崎市上豊岡町560-10 TEL(027)343-1325(代) FAX(027)343-9569

**高橋浩生税理士事務所**

税理士 高橋 浩生 第4代翠巒体育会会長  
税理士 白井 浩一 水泳部(89期)  
〒370-0072 高崎市大八木町3002番地10  
TEL.027-363-6303 FAX.027-363-6302  
[http://www.kaikei-home.com/cpta\\_hiro-hp/](http://www.kaikei-home.com/cpta_hiro-hp/)

**有限会社 北原タイヤ商会**

各種タイヤ販売・卸・修理・各種ホイール販売

代表取締役 北原 幸一 バレーボール部OB(86期)  
〒370-0043 高崎市高関町316-6  
TEL(027)323-5988 FAX(027)323-5858

平泳ぎの齋藤全賢さん(75期)がいることを知り、一緒に泳いでみたい。と憧れたことが出発点だった。

私が入学したときは、3年生7名、2年生が1名。部員を増やすことが課題であった。人数を増やすために先輩たちが考えた作戦は、1年生が入部したら歓迎会(竹箒野球)を行うことだった。入学式後に即水泳部入部を決めた私は、部員募集に奔走した。その甲斐あって、我々1年生は最大11名の所帯となった。4月の部活は新入生歓迎「竹箒野球大会」だった。

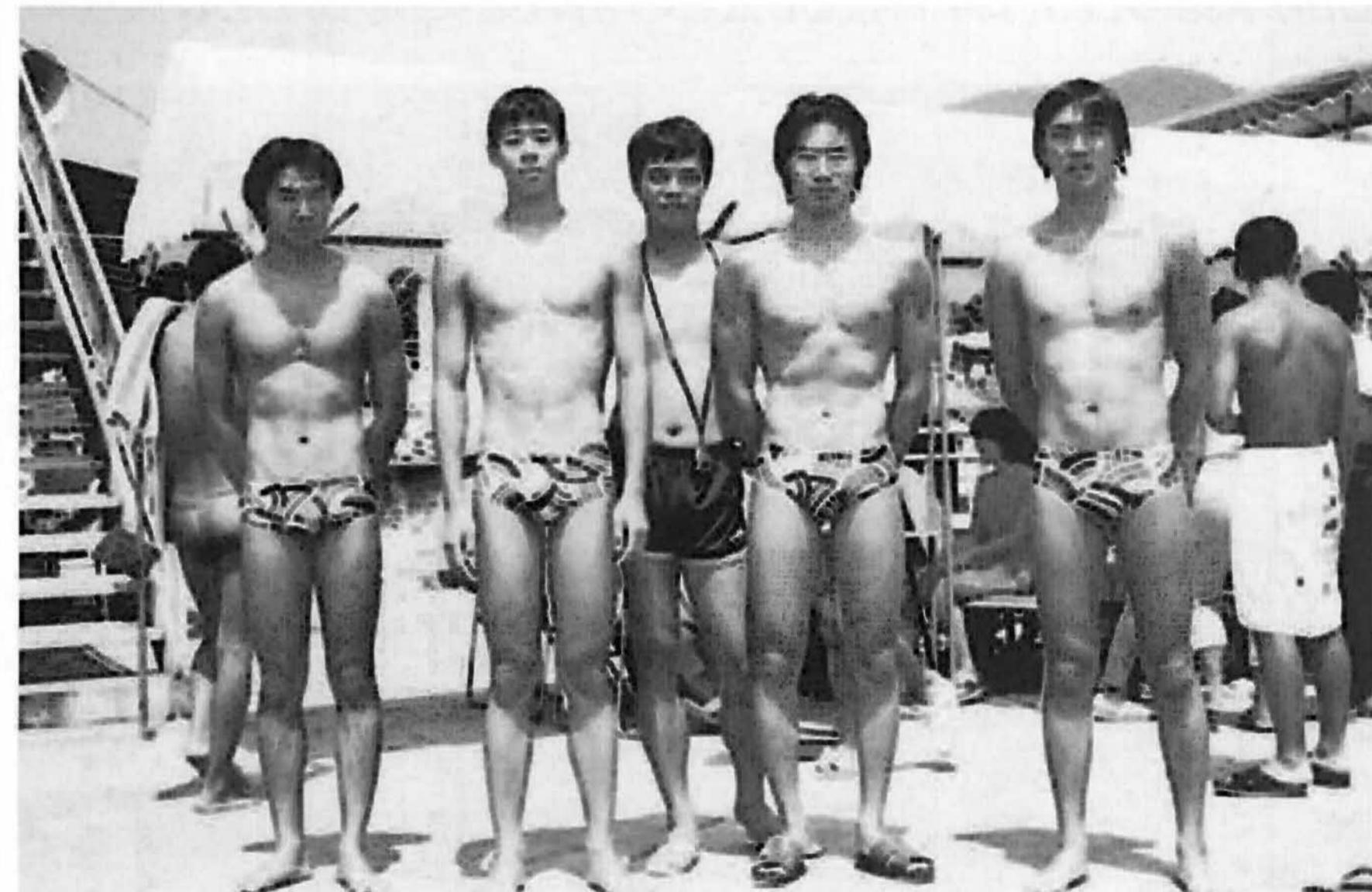
プール掃除は4月29日の天皇誕生日。ゴールデンウィーク中に水温を上げて、5月上旬からプール練習が始まった。5月の天気の良い土曜日。キャプテンから「1年生の人気投票の結果、須藤が1位になった。オメデトウ!」本日儀式を行う。機械室からプールに飛び込んでもらう。高さ2.5m、プールまでの距離1.5m、水深1.6m。高さと水深が恐怖である。ためらいの時間は過ぎ、先輩からはプレッシャーがかかり、何度もバケツの水をかぶった後ダイブ!見事な腹打ちを決め、全身を真っ赤にして儀式が終了。その後、1年生の仲間が続いた。

梅雨になると大会も近づき気合いが入る。雨の日などは3年生の気分によって、1年生の記録会が頻繁に行われた。これによりレーススピードに近い高強度の練習ができ、1年生はスピード強化につながった。

最初の大会は関東大会県予選会だ。昨年度優勝の高高水泳部は真っ先に着替えて、全コースのスタート台に立ち、「セーノ!」で一斉に飛び込んでアップを行った。このときは気持ちよかったです。リレーは3種目とも優勝。私もメドレーリレーの自由形選手として出場。会心のレースでライバル校の3年生を抜き去り優勝に貢献できた。

勢いを得て2・3年次には国体に出場することができた。「仲間を大切にする」という高高水泳部での経験により、大学でもキャプテンを務めた。卒業後は群馬県の高校教員として、高体連水泳専門部委員長を15年間務め、最後の6年間は(公財)全国高体連水泳専門部部長を務めることになった。

高崎高校水泳部は、2019年よりOB会を発足し活動を始めたところである。しかし2020年は新型コロナウィルス感染症の影響



で現役激励ができず、卒業生にネクタイをプレゼントすることで激励を行った。今後は、現役生との交流を深め、たくさんのOBの皆さんと共に、楽しいOB会活動を展開していきたいと考えます。

水泳部OB会への入会と諸活動。共に楽しくやりましょう!



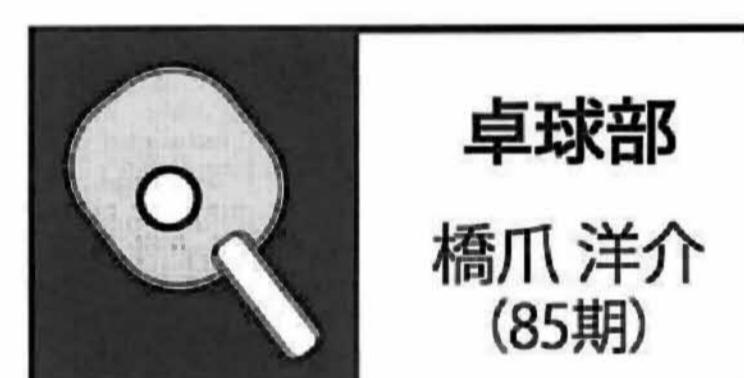
### 応援部

武藤 靖秀  
(106期)

平成最後の数年間で、高崎高校応援部の活動は、大きな広がりをみせていました。代表的なのは、複数校の応援団が一同に会して演舞披露する合同リーダー公開祭への参加だ。しかし残念ながら、この四校合同リーダー公開祭も、令和元年度の開催を最後にしばらく開催が見送られたままとなっている。新型コロナウィルス感染症の影響である。

また応援部としては、無観客、及びそれに準ずる開催形態の定着による応援機会の縮小も今後の懸念だ。もとより平成の頃から、部活動応援を理由とした公欠取得に、否定的な見解を目にすることがあった。

しかし、自校の部活動を応援するという活動は、応援される側にとっても応援する側にとっても、愛校精神を育み、ひいては生徒に誇りある行動を促す重要な機会であると考える。晴れて試合会場に歓声が戻ってきた暁には、ぜひとも仲間の活躍に歓喜するたくさんの高高生と、その先頭に立ってエールを送る応援部員の姿を見たいと願っている。



### 卓球部

橋爪 洋介  
(85期)

### 「偉大な先輩を偲ぶ」

今年5月にご逝去されました58期故山口正敏先輩に対しまして誌面をお借りいたしまして心からご冥福をお祈りさせていただきます。山口先輩は卓球部OB会のみならず翠巒体育会第三代会長としてもご活躍されました。先輩諸兄に山口先輩との思い出話を伺うと、「深沢昇先輩(57期卓球部初代OB会長)と山口先輩が我々後輩たちに対し物心両面



## 表野登記測量事務所

土地・建物の登記・測量／開発申請／相続／各種許可申請

土地家屋調査士 表野 真拡(ラグビー部・83期)

高崎市小川木町1450番地7

TEL.027-370-1286 FAX.027-370-1287

E-mail hyono.m@aria.ocn.ne.jp

## しばやま歯科

柴山 佳行 (ラグビー部・96期)

〒370-0849高崎市八島町107-102

TEL.027-393-6480

## 靴のことならトリオ

専務 吉村 祐二 (ラグビー部・101期)

株式会社トリオ 群馬県高崎市若松町92

TEL.027-322-4192

から本当によく支えてくれた。」「とても面倒見の良い方だった。」「後輩に対しても威張らず、優しさに溢れていた。」等と皆さん感慨深げに語ってくれました。また、日頃より卓球部や高高のみならず、高崎市の「街づくり」や行政と市民の橋渡し役等、そのご功績は枚挙にいとまがありません。ご生前のご遺徳にOB会一同心より感謝を申し上げます。安らかにお眠りください。

#### 「根岸博昭先輩（68期）現役生指導」

さて、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により既に一年以上、学校生活や社会経済活動が儘ならない状況になっております。本来であれば例年行っている現役生夏合宿におけるOBとの交流試合や、新年会等の活動は残念ながら自粛状態です。今年も予定はしておりますが、「コロナ次第」しかしながら、「感染拡大の波間」をぬって、4月24日(土)にOB会を代表して卓球部現役生練習激励訪問を行いました。68期根岸博昭先輩により長らく外部指導を担っていただいております。また、当日は顧問である長谷川先生にOB会より激励金をお渡しいたしました。4月に入学した新入生9名(二年生5名)も元気に卓球に汗を流しております。中には中学校時代に県ベスト4の期待の新人も入部いたしました。

OB会としては故山口先輩をはじめとする先人達の思いをしっかりと受け継ぎ、現役生の支援を通じて健全なOB会活動をこれからも行ってまいりますので、引き続き翠巒体育会・同窓会並びに関係者皆様のご指導の程、宜しくお願ひ申し上げます。



**バスケットボール部**  
塚本 浩史  
(99期)

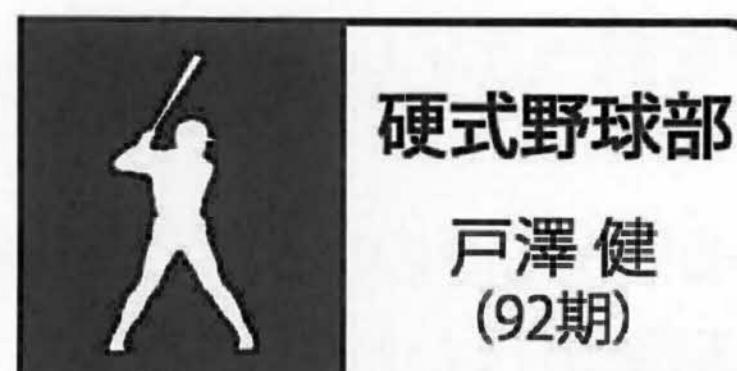
日頃よりOB諸兄をはじめ、関係各位には大変お世話になっております。また、新型コロナウイルス感染症対策にご尽力されている方にお見舞い申し上げます。

さて、毎年恒例のOB戦も令和3年度は中止となりましたが、後日に中澤OB会会长より現役支援として支援金を贈呈させていただきましたことをご報告申し上げます。現役の備品や環境整備等に役立てていただければ幸いです。また、この他にも様々な場面でこれまでにも多くのOB諸兄が現役の支援をいただいており、改めて感謝を申し上げます。

さらに、平成28年より顧問として現役の指導にあたり、広島インターハイ出場時にもチームを指揮した渡部健一郎先生が異動により高高を離れ、新たに赴任された99期の卒業生である小澤朋克先生が、新たに顧問となりました。既に春休みよりチームの指揮を執っているようですが、伝統ある高崎高校の文武両道を体現するチーム作りに期待しています。



本稿をご覧になっているOB諸兄の引き続きのご支援ご指導をよろしくお願ひいたします。



**硬式野球部**  
戸澤 健  
(92期)

2020年は様々な行動制限がなされ、それは2021年も続いています。そんな中、最大限の注意を払いながら、少しずつではありますが様々な活動が再開されてきています。我々硬式野球部OB会の活動も同様です。

活動は主に3つ。まずは「野球」です。中心はOBによるチーム「翠巒クラブ」の活動です。メンバーも年々増加。背番号の空きが少なくなってきた。昨春は多くの大会が中止となりましたが、今シーズンはほぼ例年通りの日程で開幕。先輩や後輩、同期からのマスク越しに発せられるやや聞き取りにくい厳しいヤジにも負けず、白球を追いかけています。そして、県内の高校野球OBによる「群馬県高校野球OB大会」(マスターズ甲子園の県予選)も例年通り5月の連休に開幕しました。昨年度は中止になってしまったこの大会ですが、現役大学生や2012年の選抜甲子園大会出場世代など、多くの若者も参加しています。今年も多くの若手OBが集まり、VS吉井高校OB会との初戦を突破。8月末の決勝戦



**CLINIC** 内科・皮膚科・泌尿器科・外科  
**いわい中央クリニック**  
院長 神保 裕之 (スキー・スケート部83期)  
診療時間 AM9:00~12:30 PM3:00~6:30  
休診日 木曜午後・土曜午後・日曜・祝祭日  
安中市岩井2465-1 ☎ 027-381-2201 電話予約可

**SATO HOSPITAL** 産科婦人科  
館出張 佐藤病院  
院長 佐藤 雄一  
スキー・スケート部OB(86期)  
〒370-0836 群馬県高崎市若松町96  
TEL.027-322-2243 / FAX.027-322-8248  
http://www.sato-hospital.gr.jp/

**NUNANO CLINIC** 沼野クリニック  
内科・胃腸科・外科・皮膚科・美容外来(予約制)  
院長 沼野 藤雅 (スキー・スケート部89期)  
診療時間：AM9:00~12:30 PM3:30~6:30  
休診日：日曜・祝日 皮膚科、美容外来は木曜のみ診察  
高崎市柳川町15番地 ☎ 027-322-2926

に向けた戦いが始まりました。

次に「現役世代の応援」です。現役生も昨年は非常に厳しい環境での活動を余儀なくされました。今年になっても厳しい状況は続いているが、なんとか大会が開催されています。試合会場では入場制限が行われており、なかなか応援に駆けつけることが難しい状況ですが、試合が開催されることに感謝し、現役生にも頑張って欲しいところです。後輩たちの活躍を伝える紙面を楽しみにしています。

そして「親睦会」。世代を超えて昔を懐かしみ、はたまた今日の打席を反省し…そして現役生の試合を肴に一杯。一日も早く、そんな日常に戻ってほしいと願うばかりです。そのためには、一人ひとりがやれる事をしっかりと行い、感染拡大防止に努めなければなりません。

楽しいOB会活動が出来るのも、厳しい厳しい現役時代があつたから?こそです。現役世代にもそんな経験をして欲しいものです。精一杯の高校野球、その先には楽しいOB会活動が待っています。



**ラグビー部**  
芳賀 弘幸  
(81期)

翠巒体育会の会員の皆様には、日頃よりお世話になっています。高崎高校ラグビー部OB会は、現役生の応援のため様々な活動を行つ

ています。

昨年度はコロナ禍の中で、例年行っていた「OB戦」「新年総会」や「ラグビー祭」を自粛しました。残念ではありました。現役生やOBの健康を考え、正しい判断だと思っています。ただ、コロナ禍での活動自粛をマイナスと考えるのではなく、プラスの面で考えますと、例年以上に普段の練習や合宿にOBが参加する機会が増えたように感じています。7月に練習が再開されると、「練習再開会」として若手のOBが多数参加して、現役に技術を指導したり、現役の練習相手になったりしていました。その後、保護者会も開かれ、高崎ラグビー部の歴史や我が部のOBの多数が日本や群馬県のラグビー界を牽引していることを紹介しました。

8月には、例年行われている菅平での夏合宿は中止となつて



しましたが、密を避けるため高崎近くのビジネスホテルに宿泊し、学校合宿を行いました。この合宿の練習には、菅平で行うより、たくさんの若手OBが参加することができました。若手OBは、練習相手として、大きな声を出し、現役生に熱い思いを伝えました。私も参加し、新入生の練習のお手伝いをさせていただきました。大変暑い日でしたが、新入生は進んで練習に参加し、大変うれしく感じました。

さらに、もう4年目になりますが、12月にラグビー部OB会主催で1年生の体育の授業においてラグビーの体験授業を行いました。高崎高校の「校技」であり、年配のOBにとっては懐かしい体育での冬のラグビーが授業で復活できるよう、ラグビー部OB会は高崎のラグビー授業にも積極的に関わっていきたいと思っています。

最後になりますが、すでに、face book等でご存知の方もいらっしゃると思いますが、高崎グラウンドのラグビー場が腐敗して使えなくなってしまいました。卒業生の中にはラグビー部でなくてもこのポールに愛着を感じている方も多いと思います。顧問の先生からの依頼で、ラグビー部OB会で新しいラグビー場を立てることを理事会で決定し、寄付を募る活動を始めました。

これからも高崎ラグビー部がさらに躍進できるよう、春の関東大会、夏の7人制ラグビー全国大会、冬の花園全国大会出場に向け、OB会は一層の支援を行っていきたいと思っています。



**テニス部**  
北村 真行  
(85期)

昨年の年初から見舞われた「コロナ禍」より早一年余、現在も第四波に襲われ、事態の収束がまだ見えません。社会生活も数々の制約を受けています。翠巒体育会の事業同様、テニス部OB会の主たる活動である毎夏の現役高生との交流テニス及び総会・懇親会も当然ながら昨年度は中止となりました。

そのような中でしたが、8月15日にテニス部OB三木一成さん(85期)の取り組みで、高崎市浜川運動公園拡張地内に昨年7月11日にオープンしたばかりの「清水善造メモリアルコート」でOBテニスを行なうことができました。このコートは、日本人初のウ



### RISE® ライズ総合保険

MS&AD あいおいニッセイ同和損保 総代理店

**TOUGH SHOP ぐんま中央**

代表取締役 富田 和弘 (応援部 85期)

武山 雄海 (バレー部 102期)

〒370-0044 高崎市岩押町25-18 TEL 027-322-2364



GSD  
Global Solution Developer

ホームページ、WEBシステム  
の作成はお任せください。

**株式会社ジー・エス・ディー**

専務取締役 佐藤 英樹 (応援部 92期)

〒370-0058 高崎市九蔵町 25-1 WESTIN I 503号

TEL:027-323-3880 FAX:027-310-2667

URL: <http://www.g-s-d.net> mail: [h\\_sato@g-s-d.net](mailto:h_sato@g-s-d.net)

でてこい、未来のリーダーたち。  
**四谷大塚 NET**

CEBU流學

**適塾**

[www.tekijuku.info](http://www.tekijuku.info) 塾長 櫻井 健一 (応援部 87期)

インブルドン出場者であり、ベスト4に進出した清水善造(高中7期)を記念した施設で、メインコートを含め、セミハードコート21面を備える県内最大の立派な施設です。当然ながら当日は例年以上の猛暑日で数分打つだけで息が上がるほどでしたが、竣工ほやほやの綺麗なサーフェイスは大変気持ちがよかったです。参加者は県内在住者に限らせて頂いた関係での8名ほどでしたが、炎天下の中数時間でしたが交流が持てました。また、吉井のコートで毎週日曜日に行っているOBテニス練習は、緊急事態宣言時には中断していましたが、現在は感染予防対策に留意しながら皆元気に汗を流しています。

最後に、誠に心痛む訃報となります。昨年10月5日にテニス部OBの木村年男さん(86期)が急病のためご逝去なされました。あまりに突然の早逝です。心からご冥福をお祈りいたします。合掌。



昨年度は新型コロナウィルスの影響で現役生との交流の機会は全くありませんでした。

例年ですと翠巒祭の期間中に会合を持ち、新1年生の入部状況等を確認しておりました。さらに夏合宿前には差し入れという形で現役生と交流を深めておりました。

OB会自体としても総会が3年に1度の開催のためこれといった活動もありませんでした。

日常はOB会としてではなく、個人的に気の合う仲間と山行を行っております。昨年は秋に同期の3人で稲舎山に登ってみました。1時間あまりで登れます。山頂では360度の展望が楽しめる貴重な山でした。基本的に車で出かけ、途中の日帰り温泉で汗を流して帰ってくるというパターンとなります。

群馬には気軽に登れる山が数多くあるので、無理せず続けていければと思っております。



昨年から今年にかけて、剣道部OB会の例年行っている活動が新型コロナウィルスによって大きな影響を受けました。夏・春の合宿や遠征が悉く中止になり、それに伴って行っている援助ができなくなりました。また、1月3日に行っているOB稽古会と総会・新年会についても、開催することができませんでした。

そんな中、たいへん喜ばしい出来事がありました。昨年10月の審査会において小池政一先輩(77期)が見事に八段昇段。八段は、全日本剣道連盟の称号・段級位規則において「剣道の奥義に通曉、成熟し、技倅円熟なる者」の基準に該当すると認められる者に与えられる、剣道界における最高位です。身近な先輩が八段に昇段したことにより、OB会員一同は誇りに思うと同時に大いに盛り上りました。

また、今年2月に行われた全日本選手権大会の群馬県予選において、北野寛平先輩(105期)が惜しくも2位という結果でした。

このように、コロナ禍の中でも本剣道部OBは地道に着実に活動して成果を挙げている様子を知ることができました。とかく息苦しく暗くなりがちな世情に対して明るい話題が伝えられたことを大いに喜びたいと思います。

高校剣道部の活動も、顧問の木村先生と國富先生に熱心に指導していただいている。新型コロナウィルスの影響で先の見通しが十分に立たない状態ですが、今後もOB会が高崎高校剣道部の活動を全面的に支援し、一層もり立てて行きたいと考えています。



2020年8月9日(日)、35度を超える猛暑の中、高崎高校テニスコートにて毎年恒例のOB、現役との親善試合が行われました。今年は新型コロナウィルス感染症が流行したこともあり、学生OBの参加ではなく、社会人OBの参加のみとなりました。68期から112期まで、幅広い世代のOBが参加し、現役と熱戦を繰り広げていました。OBから現役へアドバイスを送る場面もあり、OBと現役との交

**株式会社広田住宅センター**  
高崎市田町92(群馬銀行高崎田町支店向かい)  
**TEL.027-325-0055 FAX.027-330-1181**  
代表取締役 広田 金次郎 (柔道部 95期)

**高崎駅西口**  
**木屋駐車場**  
**TEL 027-322-5712**  
〒370-0052 高崎市旭町128  
鳥居 吉二 (柔道部 73期)

流の場となりました。

17年前の2003年8月9日、高崎高校が21年ぶりに団体でインターハイ(会場は長崎県)に出場しました。結果は、3番勝負の末、高知小津高校に敗退でした。その時にも、OB会からの大きな支援があり、長崎までの大応援団の交通費や宿泊費等、多額の寄付を用意していただきました。ソフトテニス部OB会の大きな力を現役の時に感じた瞬間でした。

これからも、現役へのご支援、ご協力をよろしくお願ひいたします。



日頃よりOB諸兄及び関係者各位には大変お世話になっております。

我々バレー部OBチームである翠巒クラブは、例年参加している全日本クラブカップ選手権群馬県予選会や天皇杯群馬県予選会等の大会で勝ち抜

くことを目標に、毎週練習を行っています。

昨年度はコロナ禍の為、すべての大会が中止となりましたが、感染状況を見て他クラブとの練習試合を行い、目標へ向け刺激を得ることができました。現在も練習時間短縮等の制限はありますが、「練習できる機会を大切にする」という姿勢で日々メンバーとともに練習に励んでいます。最近では、先輩が練習中の動画に音楽を付けて編集してくれる為、楽しみながら自身のプレーを振り返ることもできています。

新年の恒例行事であるOB×現役生の練習会やOB新年会について今年の開催は叶いませんでしたが、OBと現役・OB同士の「交流の場」および「再開の場」として再び賑わいのある会を行えることを願っております。今後も、バレーボール部顧問である柴山先生(103期)と連携を取り、現役生の支援を続けていくとともに、OB会の活躍の場を拡げていく所存です。



## 『コロナ禍で生活トレンドに変化 巣ごもりで本を読む人が増加』



翠巒体育会の会員の方が執筆した書籍をこのコーナーで紹介します。



### 小さい農業で暮らすコツ

出版社・農文協 ¥2,200 著者・新藤 洋一(81期 水泳部)

田舎での自給生活を夢見て27才で脱サラ。食糧&エネルギー自給のノウハウを徹底解説

10年のサラリーマン生活を経て、「自給生活」こそが人生の目的であり、生きる喜びだと思い立ち脱サラ。石川県の自然農場での研修後、吉井町で本格的に自給生活を開始した。「農業」ではない自給生活。採れた作物を使い、料理屋や惣菜屋で家計を支えてきた。手植えで米を作り、自家製大豆で味噌を仕込む。鶏を絞めてラーメンスープを作る等、30年にわたる自給生活で培ったノウハウが詰まっている。書店や通販サイトで購入可。



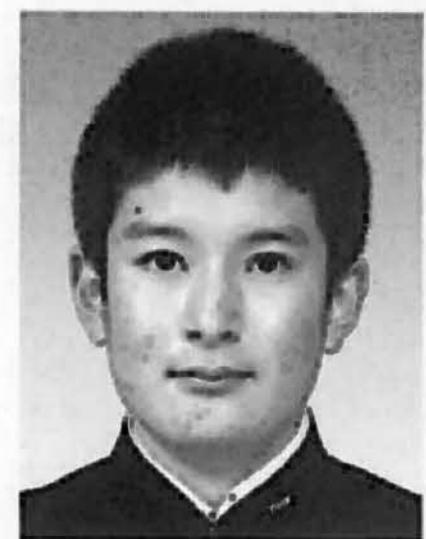
### 阿修羅草紙(あしゅらぞうし)

出版社・新潮社 ¥2,310 著者・武内 涼(ペンネーム)(寺澤 佑介 95期 スキー・スケート部)

孤独な「くノ一」が、大乱前夜の都を疾駆する歴史エンターテインメント

延暦寺につかえる者が住まう八瀬の山里には「八瀬童子」と呼ばれる忍びたちがひっそりと暮らしていた。ある日、次期天台座主の名前が記された秘伝の巻物が奪われ、巻物の奪還を命じられた少女・すがるは、陰謀渦巻く京の都へと向かう。疫病と飢饉に困窮する民をよそに「花の御所」で繰り広げられる権力争い。そこへ山名宗全、細川勝元ら守護大名たちの対立が絡み、巻物の探索は壮絶な忍者同士の死闘へと発展していく——。

## 《高崎高校運動部の活動報告》 先輩がんばってます



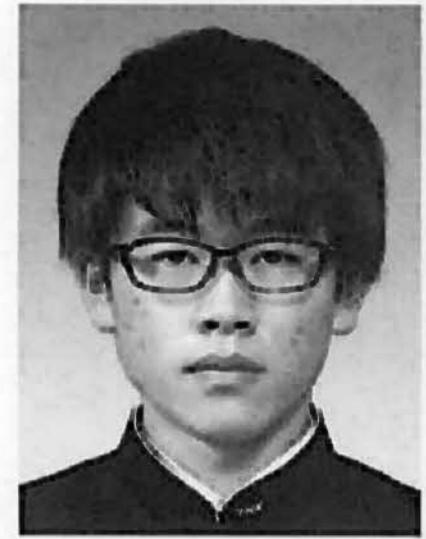
### 軟式野球部

寺岡 陵太

私たち軟式野球部は、顧問の田島先生、副顧問の大久保先生、藤生先生のご指導の下、3年生9名、2年生4名、1年生8名の計21名で活動しています。

秋季群馬県大会では様々な方の支えもあり、優勝することができましたが、その結果に満足することなく、春そして夏の県大会でも優勝し、関東大会、全国大会に出場することを目標に日々活動しています。野球を楽しむことを第一に、自分たちの武器であるチームワークを最大限に発揮し頑張っていきたいと思います。

最後に、このコロナ禍の中でも私達を支えてくださっている先生方、そして保護者の方々への感謝を忘れずに精進していきたいと思いますので、これからもご支援、ご声援よろしくお願ひします。



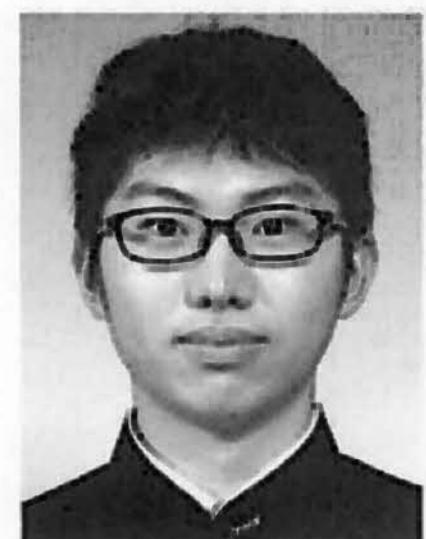
### 弓道部

石井 大輝

私達弓道部は、顧問の池永先生、副顧問の森戸先生、コーチの東宮先生のご指導の下、日々練習に取り組んでいます。

昨年度は思うように部活動が行えませんでしたが、自粛期間後は練習を積み重ね、現在は県総体とインターハイに向けて部員一同射技向上に努めています。やりきれない気持ちのまま引退していく先輩方の思いも背負って、更に意識を高く持って練習に励み、今まで身につけてきたすべてを大会で出し切り、関東大会出場の目標が達成できるように頑張ります。

最後になりますが、自由に部活ができる事、支えてくれる方がいることに感謝し、今後の練習、大会に力を尽くしていきますので、応援よろしくお願ひします。

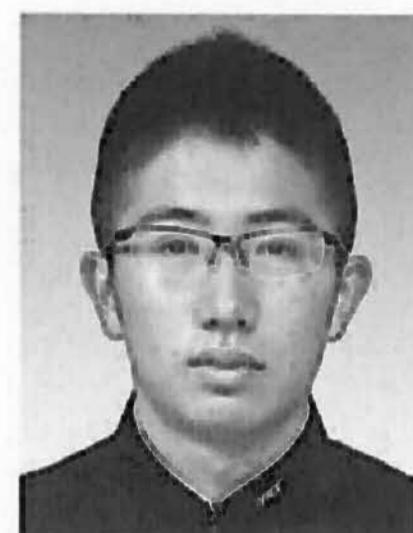


### 空手道部

石田 悠

我々空手道部は現在、3年生2名、2年生4名、1年生2名の計8名で活動しています。顧問の岡田先生、副顧問の小島先生に活動を支えていただきながら、日々の練習に取り組んでいます。

さて、一年ほど前に流行し始め、ニュースで聞かない日がない新型コロナウイルスの影響を受け、昨年度は多くの大会が中止になりました。一向にコロナ収束の兆しが見えない中ではあります、空手道では、今のところ、春の大会や夏の大会を開催することです。当然コロナウイルス対策万全の状態で開催されることになると思いますが、規模は例年通りで行われます。我々に限らず、日々空手道に励む高校生たちのために、知恵を絞って活躍の機会を与えてくださった大会運営の先生方に感謝します。



### 陸上競技部

井上 直紀

陸上部は新井先生、工藤先生、北爪先生のご指導の下自らの目標達成のために日々練習を重ねています。昨年は新型コロナウイルスの影響を強く受けたシーズンになりましたが、学校対抗では目標である1部残留を達成し、新人大会では8種目で関東大会出場、5000mでは第3位となりました。

今年は1人1人が力を出し切り、1人でも多く上位大会への出場をして活躍すること、今年逃した関東駅伝出場を目標としています。この目標を達成するため、私達は日々試行錯誤をしながら練習を行っています。創造的に練習を行い、仲間と意見交換しながらより高いレベルを追求していきたいと思います。

最後になりますが、私達の活動を日々支援してくださる先生方、OBの方々に感謝を忘れず精進していきたいと思います。応援よろしくお願ひします。



### 柔道部

オゾエメナソブル 涼太

柔道部は3年生2人、2年生4人、1年生2人で活動しています。顧問の大隅先生、副顧問の川田先生、監督の田中先生のもと、団体県優勝を目指し日々切磋琢磨しながら稽古を積んでいます。

昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響で多くの試合が中止になり、練習の際も徹底した感染対策を取りながら活動しています。しかし、開催される大会もあり、その大会に向けて練習を行っています。また、新たな目標として、勝つだけでなく、やってて良かったと思える部活になるように意識しています。これらの思いを持ち続け、日々精進していきたいと思います。最後に、顧問の先生方や保護者の方々、OBの方々への感謝の気持ちを忘れずに日々の練習を積んでいきます。応援よろしくおねがいします。



### ソフトテニス部

大塚 岳

ソフトテニス部は顧問の菊地先生、副顧問の徳光先生のご指導の下、3年10人、2年9人、1年10人の計29人で活動しています。

目標は、決して学業を怠ることなくかつ競技にも真剣に取り組み、文武両道を実践することです。団体県ベスト4以上を目指して日々練習に励んでいます。群馬県は競技レベルが高く、全国クラスの強豪校もいるので、勝ち上がっていくのは大変厳しいですが、少ない練習時間を効率的に使い高め生らしく、頭を使って戦っていきたいと思います。

当部では基本的に生徒が中心となって練習メニューを考えます。どのような練習をするかや時間配分など、考えなくてはならないことがたくさんあるので大変ですが、その分思考力が身につき、部員同士で深いコミュニケーションが取れるようになりました。

これから始まる最後の夏に向けて今まで以上に全力で取り組んでいきたいと思いますので、ご声援をよろしくお願ひします。

**株式会社 シビル設計**

CIVIL Design office Co., Ltd

代表取締役 根岸博昭(卓球部67期)

高崎市石原町1753-33 TEL027-324-1456



株式会社

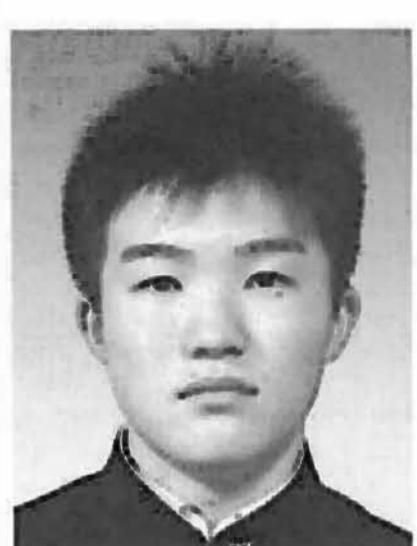
システムハウス

代表取締役 堤 康高(卓球部71期)

群馬県高崎市栄町15-9 きむらビルⅡ4-B  
TEL. 027-327-8451 FAX. 027-327-8480  
URL <http://www.sysh.jp/>

**文武両道・3F精神 全開!  
がんばれ、卓球部**

**卓球部OB会一同**



## 水泳部

佐藤 瑞威

水泳部では顧問の山田先生、渡辺先生のご指導の下、3年生2名、2年生4名、そして新たに迎え入れた1年生2名の計8名で活動しています。日々の練習は、各々が通うスイミングスクールあるいは学校のプールで行っており、自分が持つ記録の更新を目標に活動しています。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で殆どの大会は中止になってしまい、練習で培ってきた成果を発揮する機会がありませんでした。今年度は、リレーでの関東大会出場を目指し掲げています。目標達成に必要な自身の課題を克服し、部員一同、昨年度の分まで夏の大会で結果を残せるように精進していきます。

最後に、日頃から支えてくださる先生方やOBの方々への感謝を忘れず、部のさらなる発展に貢献できるよう頑張っていきますので応援よろしくお願ひします。



## 山岳部

榎本 慧

私たちは、顧問の井上先生、副顧問の国富先生、鈴木先生のご指導の下、総体で3位以内入賞を目指し活動しています。今年はコロナウイルスの影響で思うように活動できませんでしたが、一人ひとりが目標を持って練習に励んできました。

唯一行われた新人大会では、団体3位に入賞したものの、自分達の力不足を痛感しました。しかし、他校と競うことで自分達の立ち位置を知る良い機会となったのではないかと思います。また、今年から観音山のオリエンテーリングコースを使って練習を行い、読図能力の向上に努めてきました。

これからもOBの方々や指導してくださる先生方に恩返しができるよう、精一杯頑張って行きますのでご支援よろしくお願ひします。



## テニス部

不破 俊英

私達テニス部は顧問の高橋先生、中川先生のご指導のもと3年生8名、2年生20名、1年生13名の計41名で活動しています。団体ではベスト4以上、個人では本戦出場を目指し日々練習しています。

高高テニス部はほとんどの生徒が高校から硬式テニスを始めるため他校のジュニアからやっている人と比べると技術的に劣っている部分もありますが、その分粘り強いテニスを行い、ミスを減らし、頭を使うことによって足りない部分を補っていると思います。これからも自分たちの強み生かして頑張ろうと思います。

最後に、顧問の先生方のご指導、家族やOBの方々の支えありきのテニス部だと思うので感謝の気持ちを忘れずに、部活動に取り組んでいきたいと思います。自分たちが今まで培ってきたものを信じて、一試合一試合に集中して勝利を目指していくので応援よろしくお願ひします。



## ラグビー部

相澤 駿平

私達ラグビー部は、花園出場を目標に、皿山先生、反町先生のご指導の下、日々の練習に励んでいます。

3年生5名、2年生12名、1年生10名の決して多くない人数ではありますが、私立打倒を果たすべく、チーム作りをしています。

ラグビーは、テクニックやスキル以上に人間性が色濃く表れる競技です。チームのために規律を守り、痛みに耐え、恐怖に打ち勝つてはじめて相手に立ち向かえるからです。そして、苦しいときにこそ仲間のために身体を張ってハードワークできる者が強いプレーヤーでありカッコいい人間だと思います。

これからも、全部員がカッコいい人間により近づくことができれば、結果はついてくると信じ、また、OBの先輩方や支えてくださる方々への感謝を忘れず、高崎高校ラグビー部の伝統と誇りを胸に挑戦し続けます。今後ともご支援の程、よろしくお願ひします。



## バレーボール部

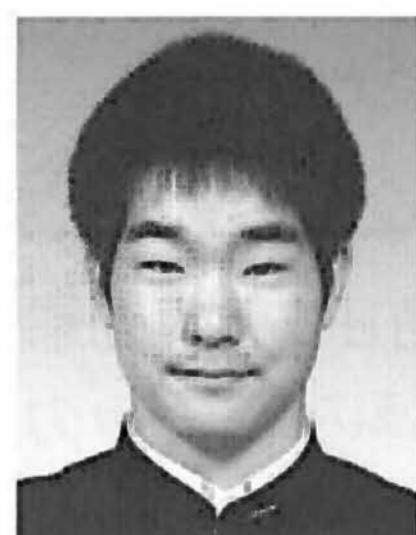
上和田 成輝

我々バレーボール部は、顧問の柴山先生、鈴木先生のご指導のもと、部員22名で活動しています。

昨年度は新型コロナウイルスの影響で総体、インターハイ予選が中止となってしまったので、今年度こそはインターハイ、春高バレーに出場できるよう日々練習に励んでいます。

なかなか思うように練習試合等ができる中で、より一層練習の質や緊張感を持って練習できるかがチームの成長に大きく関わると思い、自分たちは意識高く練習を行っています。

バレーボールのできるありがたさを改めて実感したからこそ、先生方、OBの方々への感謝の気持ちを忘れず、最後まで全力でプレーしますので、今後ともご声援よろしくお願ひします。



## バドミントン部

川鍋 直也

私達バドミントン部は、3年生8名、2年生6名、1年生15名の計29名で活動しています。

バドミントン部は高校から始めるものが多く、小中学生時に経験のある特に東毛地域の選手と比べて及ばないことがたくさんありますが、全員で工夫した練習をして、大会で勝てるよう日々精進しています。また、人数に対してコートが多く確保できませんが、平日は基礎的な練習を、休日は実践的な練習をしてそのハンデを克服できるよう努めています。

現在、新型コロナウイルス感染症により、大会の日程や参加人数に大きな制約があり、モチベーションを保つことが難しい時期でもあります。しかし、個々が自分の役目を全うし、支えてくださる飯塚先生、鈴木幸先生への感謝を忘れずに、これからも活動に取り組んでいくので、応援よろしくお願ひします。

ナカザワ・ワイン  
ナカザワ・ドウ

有限会社 仲沢酒店

仲澤 賢一 (バスケットボール部 第66期)

高崎市八代町1-12-4  
(和田橋通り)  
電話 027-323-1621  
FAX 027-326-2141

(社)日本バドミントン協会認定 シニアアドバイザー  
(社)日本バドミントン協会 群馬支部支部長  
ホームページ <http://www.nakazawa.com>

# 株式会社 塚本工務店

塚本 浩史 (バスケットボール部 99期)

本社 〒375-0024 群馬県藤岡市藤岡1848-1 TEL.0274-23-1212(代) FAX.0274-24-2300



## バスケットボール部

林 俊太朗

私たちバスケットボール部は3年生9人、2年生10人、1年生16人の計35人で、顧問の小澤先生、川田先生のご指導の下、県ベスト4以上、関東大会・全国大会出場を目指し日々の練習に励んでいます。

WC予選ではベスト16と、自分達の力を十分に発揮することなく終わってしまいました。その後のリーグ戦では、負けた悔しさを糧に、チームの成長を感じることができました。

しかし、練習時間や対人練習の減少により、思うように練習に取り組めない時期もありました。新人戦も中止になりましたが、バスケへの思いが途絶えることなく通常の練習が再開でき、いかに恵まれた状況でプレーさせてもらっていたかを再確認することができました。身近な方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからも精進していきますのでご支援宜しくお願いします。

## 応援部

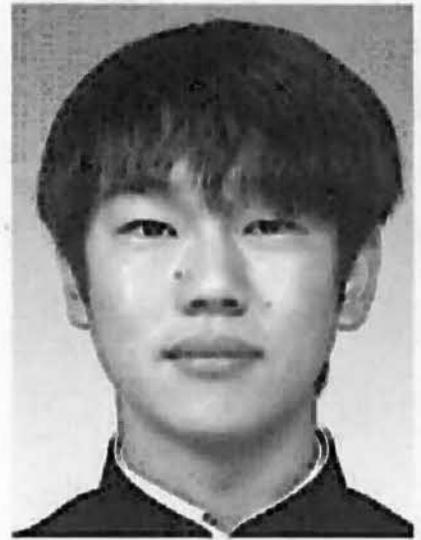
根岸 直輝



新型コロナウイルスの影響が続く中、インターハイをはじめ、多くの大会等が開催されますことを僭越ながら大変嬉しく存じます。

この令和という時代、コロナ禍におきまして、「応援部」の在り方を愚直に考えてまいりました。吾々で陸拾玖代を數える応援部ですが、近年部員を確保するのも困難を極めています。その渦中にありますが、吾々応援部は伝統の灯を絶やすんが為、往古今来、日々伝統という光を研磨することが役目の一であると自負しております。それ故に、応援部が、応援部である吾々がどう在るべきか、その真理を日々追い求めています。

応援部が時代錯誤と称される当節に、吾々は何故古き伝統を重んじ、何故それを継承していくのか。その答えを吾々の応援を以て示せるよう、尽力していく所存です。伝統よ更に栄えあれ。



## サッカー部

野口 魁人

私たちサッカー部は、顧問の吉田先生、副顧問の徳光先生、渡辺先生のご指導の下、日々の活動に取り組んでいます。

今年度も新型コロナウイルスの影響でマスク着用での練習や対外試合の禁止、新人戦の中止などと通常の活動とは異なったものになってしまいました。しかし、部員全員が高校総体、インターハイの開催を信じて、目標である関東・全国大会出場を目指し、選手間でのコミュニケーションを大切にし、個々の能力とチームワークの向上に努めてきました。

この状況下で当たり前のように練習ができるのは、先生方やOBの方々、そして保護者の方々の支えがあったからだと感じます。今のメンバーでできる限り少ない試合を勝てるように精進していきますので応援のほどよろしくおねがいします。



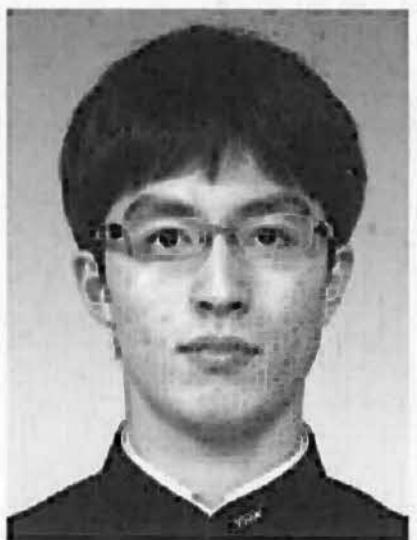
## 硬式野球部

高安 一輝

私たち硬式野球部は、境原先生が示してくださいました「丹念・執念・情念」の部訓のもと、境原先生、大隅先生、井田先生、今井先生のご指導で、計42名が日々甲子園を目指し、練習に励んでいます。今年度から境原先生が監督に復帰され、チームの士気が上がり、自分たちが掲げたテーマである、観客をハラハラドキドキさせるような「スリリングベースボール」を常に意識し、必ず甲子園の切符を勝ち取ります!

新型コロナウイルスの影響でいろいろな制限がかかる中ですが、沢山の方々の協力の下、大会を開催していただけることに感謝し、最後まで全力でプレーします。

最後に、多くの方々の支えによって野球ができる事を忘れず、一生懸命頑張りますので、これからも応援よろしくお願いします。



## 剣道部

角野 豊

私たち剣道部は、3年生7名、2年生5名に、新たに入部した1年生6名を加えて、顧問の木村先生、副顧問の國富先生、兵藤先生、OBの先輩方のご指導の下で日々稽古に励んでいます。

昨年度も新型コロナウイルスの感染拡大により、マスクを付けての練習を強いられるなど制限のある中での部活動でしたが、それでも剣道ができる環境のありがたさを改めて実感しました。大会も開催されるようになり、コロナに負けず一歩一歩前に進んでいると感じています。

今年度は昨年中止になった高校総体、インターハイ予選も開催される予定です。チームの目標の関東大会出場を目指すとともに、昨年出場することができなかった先輩方の分も頑張りたいと思います。応援よろしくお願いします。



## 卓球部

青木 恵真

卓球部は須田先生、長谷川先生、中島先生のご指導の下、日々練習をしています。

練習試合や試合の動画を見返す中で課題点を見つけ、修正する。この繰り返しにより少しずつ各々のプレーに自信がついてきたと実感しています。

今年は去年の先輩方の無念を晴らすべく部員一同、目の色を変えて練習しています。試合では声を出す部員も多くなり、目標の団体ベスト8も夢物語ではないように思えるようになりました。この数年で必ず前高に追いつき、追い越し定期戦でも高高に貢献してみせます。

最後に、我々高崎高校卓球部はこのようないい時世であっても熱心に指導してくださる先生方、応援してくれるOBの方々や周りの人々への感謝をボールに込めて励んでいきます。これからも応援よろしくお願いします。

高崎高校 陸上競技部OB会 会長 甲斐 俊輔 (87期)

(「高崎高校陸上競技部OB会」Facebook 開設しました)

## 令和2年度運動部活動状況

### 硬式野球部

全国高等学校野球選手権群馬大会

1回戦 3-1 中央中等

2回戦 1-11 常磐

秋季関東地区高等学校野球大会群馬県予選

1回戦 0-4 前商

### バレーボール部

全日本バレーボール高等学校選手権大会県予選

3回戦 2-0 桐生

準々決 0-2 伊勢崎

### 空手道部

新人大会

個人組手(79kg級) 渡辺悠太 第3位

### 水泳部

新人大会

50m自 高尾晴空 第3位

### 柔道部

第68回群馬県高等学校新人柔道大会

団体戦 第8位

第43回全国高等学校柔道選手権大会群馬県予選

個人 81kg級 オゾエメナソブル涼太 優勝

第43回全国高等学校柔道選手権大会

個人 81kg級 オゾエメナソブル涼太 ベスト16

### ソフトテニス部

群馬県高等学校夏季ソフトテニス大会

団体本戦 1回戦2-1 農二

2回戦0-2 前商 3位

個人 ダブルス 井田・河合ペア ベスト8

群馬県高等学校新人ソフトテニス大会

団体 3-0 樹徳

2-1 吾妻中央

0-2 健大高 ベスト8

個人 ダブルス 井田・河合ペア ベスト8

### ラグビー部

群馬県選手権大会(全国大会県予選)

2回戦 108-0 渋工

準々決 10-40 桐一 ベスト8

### 軟式野球部

夏季群馬県高等学校軟式野球交流試合

1回戦 8-1 前橋(7回コールド)

2回戦 2-0 前南

第61回秋季関東県予選

1回戦 5-0 高商

2回戦 14-4 育英(6回コールド)

準決勝 4-0 三校連合

決勝 8-1 前橋 優勝

(関東大会出場)

第61回秋季関東地区高等学校軟式野球大会

1回戦 3-6 拓大紅陵(千葉B)

(延長12回)

群馬県高野連軟式部優秀選手表彰

中野大輝(3年) 高橋真尋(3年)

### 剣道部

群馬県高等学校対抗剣道選手権大会

団体 1回戦 1-2 太田

個人 角野 ベスト16

### 山岳部

第51回新人登山大会

団体 男子縦走 3位

個人 男子縦走 新井大稀 5位

### 陸上競技部

県高校学校対抗

走高跳 松本新大 第3位

三段跳 黒木暎太 第3位

県高校新人

200m 井上直紀 第2位

800m 古原朋樹 第2位

5000m 堀口花道 優勝

(関東大会出場)

走幅跳 山口 権 第2位

やり投 石川和宗 第4位

三段跳 松本新大 第6位

走高跳 萩原飛幸 第6位

4×100mR 萩原、松本、山口、井上 第6位

関東高校選抜新人

5000m 堀口花道 第3位

### サッカーチーム

全国高校サッカー選手権大会群馬県大会

1回戦 1-2 伊勢崎

### 卓球部

新人大会

団体 2回戦 3-0 富岡

3回戦 0-3 新島

### バドミントン部

新人大会

団体 1回戦 3-0 前工

2回戦 0-3 桐生

### バスケットボール部

全国選手権県予選

4回戦 67-96 健大高

### テニス部

新人大会

個人 シングルス

田内大介、小山凜之介、花見耀 ベスト64

ダブルス 花見・小山 ベスト16

田内・高橋 ベスト32

団体 1回戦 4-1 伊商

2回戦 3-1 商大附

3回戦 1-3 共愛 ベスト8

### 弓道部

県体育大会

団体 20射12中 6位

個人 平方快青 8射 6中 8位

県選手権

団体 40射13中 予選落ち

県新人大会

団体 Bチーム 48射23中 7位

個人 江城翔一朗 8射 8中 優勝

東日本予選

団体 24射 9中 予選落ち

### 第55回高校総体(令和3年)

### バレーボール部

3回戦 2-0 太田

準々決 2-0 伊勢崎

準決 2-1 県央

準々決 1-2 高工 準優勝

(関東大会出場)

### ソフトテニス部

団体 1回戦 3-0 尾瀬

2回戦 2-0 前工

3回戦 0-2 高商 ベスト8

(関東大会出場)

### バドミントン部

団体 1回戦 0-2 伊工

### サッカーチーム

2回戦 1-0 沼田

3回戦 3-0 前工

4回戦 1-5 桐一 ベスト16

### バスケットボール部

1回戦 95-79 渋川

2回戦 82-54 市前橋

3回戦 93-74 前橋

準々決 70-84 樹徳 ベスト8

### 山岳部

第7位

(関東大会出場)

### 空手道部

団体 1回戦 5-0 伊勢崎(不戦勝)

2回戦 0-5 商大附 ベスト8

### 剣道部

2回戦 1-2 太田

### 弓道部

団体 48射26中 第8位

個人 江城翔一朗 8射 7中 第2位

### テニス部

団体 2回戦 3-0 大泉

3回戦 0-2 高工 ベスト16

### 軟式野球部

2回戦 5-1 育英 第3位

準決勝 1-2 高商 第3位

### 卓球部

団体 2回戦 3-0 長野原

3回戦 3-0 安総合

4回戦 2-3 前東 ベスト16

### ラグビー部

1回戦 12-5 前橋

準々決 0-66 県央 ベスト8

### 柔道部

《柔道競技》

団体 2回戦 4-0 高商

3回戦 1-3 常磐

敗者戦 4-1 太工

3-2 勢農

2-1 沼田 第5位

(関東大会出場)

《相撲競技》

団体 2-0 太工

0-5 樹徳

個人 オゾエメナソブル涼太 準優勝

第3位

### 陸上競技部

100m 井上直紀 第2位

## 翠巒体育会役員名簿

(令和3.6.24)

役職	氏名	期	運動部名
会長	大田部 功	85	ラグビー
副会長	山岸 祐二	79	水泳
"	清水 威	85	硬式野球
"	橋爪 洋介	85	卓球
"	仲澤 賢一	86	バスケットボール
"	滝野 修司	86	剣道
"	甲斐 俊輔	87	陸上競技
"	根岸 強	87	サッカー
"	小林 優介	103	ソフトテニス
"(会計編集委員)	吉井 章一	78	山岳
"(編集局長)	志田 登	82	柔道
"(編集委員)	北村 真行	85	テニス
"(事務局)	櫻井 健一	87	応援
"(事務局)	坂本 弘	87	バレー
"(事務局)	井野 周平	91	ラグビー
"(事務局)	横田 裕正	92	スキー・スケート
監査	波多野重雄	77	陸上競技
"	波瀬 憲昭	81	バレー
顧問	國峯善次郎	50	サッカー
"	岩田 武雄	53	バスケットボール
"	高橋 浩生	78	バレー
理事(情報部長)	堤 康高	71	卓球
"(会計)	清水 元	91	硬式野球
理事	原 到	78	バレー
"	高橋 孝史	97	"
"	塚越 英男	91	剣道

役職	氏名	期	運動部名
理事	萩原 克明	93	剣道
"	鳥居 吉二	73	柔道
"	石橋 修	90	陸上競技
"	足立 晋	96	"
"	中山 拓紀	102	"
"	今村 孝之	80	ラグビー
"	相澤 悅郎	88	"
"	高橋 哲人	89	"
"	黒田 和宏	99	"
"	永尾 俊弘	70	水泳
"	斎藤 全賢	75	"
"	伊藤 祐司	75	"
"	須藤 聰	78	"
"	羽鳥 広平	104	卓球
"	高橋 秀仁	107	"
"	石田 和久	75	ソフトテニス
"	深堀 将平	111	"
"	新嶋 拓哉	111	"
"	富田 和弘	85	応援
"	佐藤 英樹	92	"
"	根岸 彰	103	"
"	武藤 靖秀	106	"
"	遠山 昇	79	サッカー
"	安藤 英彦	86	"
"	佐藤 雄一	97	"
"	高山 雄介	100	"

役職	氏名	期	運動部名
理事	小林 均	77	硬式野球
"	堀込 貴	84	"
"	赤澤 正喜	84	"
"	北嶋 聰二	87	バスケットボール
"	鈴木 徹也	88	"
"	小澤 朋克	99	"
"	児島健太郎	100	"
"	松本 基志	77	山岳
"	須川 光一	79	"
"	齋藤 英敏	83	テニス
"	長谷川泰三	83	"
"	松本 潔志	85	"
"	神保 裕之	83	スキー・スケート
"	佐藤 雄一	86	"
"	沼野 藤雅	89	"
理事(編集委員)	芳賀 弘幸	81	ラグビー
"	茂原 賢三	89	陸上競技
"	伊藤俊一郎	92	柔道
"	武山 雄海	102	バレー
"	清水 健一	104	ソフトテニス
編集委員	提箸 宏	74	サッカー
"	新藤 洋一	81	水泳
"	藤井 正弘	81	応援
"	戸澤 健	92	硬式野球
"	寺澤 佑介	95	スキー・スケート
"	角岡 大悟	96	剣道
"	塚本 浩史	99	バスケットボール
"	宮原丈太朗	111	卓球
事務局長	境原 尚樹	81	硬式野球
事務局	小澤 朋克	99	バスケットボール

## 学校側顧問

校教務事務長	小林 智宏
頭長	田中 幸雄
運動部長	浅岡 守
運動部長	吉田 卓弥
事務局	小澤 朋克

硬式野球	境原 尚樹	大隅 昭彦	井田 郁浩	今井 健太
ラグビー	皿山 優義	反町 豊		
サッカー	吉田 卓弥	徳光 尚之	渡辺 彰	
陸上競技	新井 康司	工藤 洋平	北爪 紀枝	
水泳	山田 敏行	渡辺 彰	中嶋 英彦	
山岳	井上 貴智	國富 充敏	鈴木 幸英	
応援	竹内 聰	西村 淳也		
ソフトテニス	菊池 将史	徳光 尚之		
テニス	高橋 建次	中川 浩之		
スキー・スケート	一場 尚子	小島 敦子		
バスケットボール	小澤 朋克	川田 亮一		
バレー	柴山 俊広	鈴木 崇元		
卓球	須田 韶二	長谷川 忠史	中島 康彦	
剣道	木村 拓哉	國富 充敏	兵藤 敦紀	
柔道	大隅 直樹	川田 智広		
弓道	池永 真孝	森戸 麻子		
空手道	岡田 一輝	小島 敦子		
軟式野球	田島 悅男	大久保 泰希	藤生 揚亮	
バドミントン	飯塚 勇一	鈴木 幸英		



## OB会長名簿

OB会名	会長氏名	期
柔道部OB会	鳥居 吉二	73
ソフトテニス部OB会	田口 恵一	74
サッカーチームOB会	清野 哲雄	74
硬式野球部OB会	清水 正郎	75
山岳部OB会	松本 基志	77
水泳部OB会	島崎 秀明	77
剣道部OB会	小池 政一	77
バレー部OB会	原 到	78
ラグビーチームOB会	今村 孝之	80
テニス部OB会	林 正和	81
スキー・スケート部OB会	神保 裕之	83
応援部OB会	富田 和弘	85
卓球部OB会	橋爪 洋介	85
バスケットボール部OB会	仲澤 賢一	86
陸上競技部OB会	甲斐 俊輔	87

○ [角岡・剣道部・96期]

○ 会報40号を発行することができました。寄稿してくださいました皆様に心より感謝申し上げます。

さて、私が編集委員になってから毎年必ずと言っていいほど「見ましたよ」と声をかけられます。職場の同僚、仕事の関係先、時には同窓生以外であったりして、そのことをきっかけにより親しくなることができました。なぜ知っているのか尋ねると現役生の保護者だったということもありました。幅広い読者がいるこの

会報の凄さを感じます。今回も誰から声をかけられるのか楽しみにしています。

編集会議ではコロナの影響で中止となった行事が多く編集の難しさを感じましたが、ご活躍されている諸先輩方や現役生が多く、また編集委員の中に作家の方が2人もいることから発行にこぎつけました。大変うれしく思います。インターネットでもこれまで発行された会報を閲覧できます。家にいる時間が増えている今、ご覧になってはいかがでしょうか。